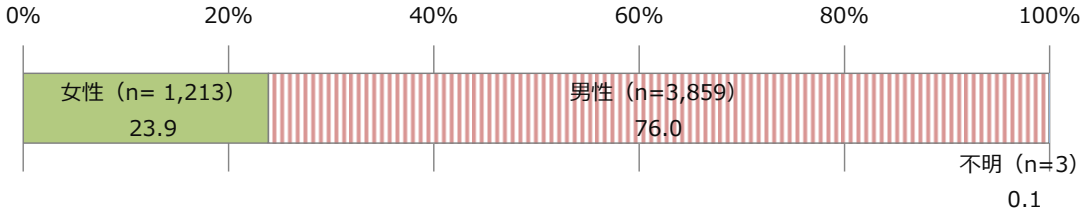
4.3　アンケート調査の結果（地方議会議員）

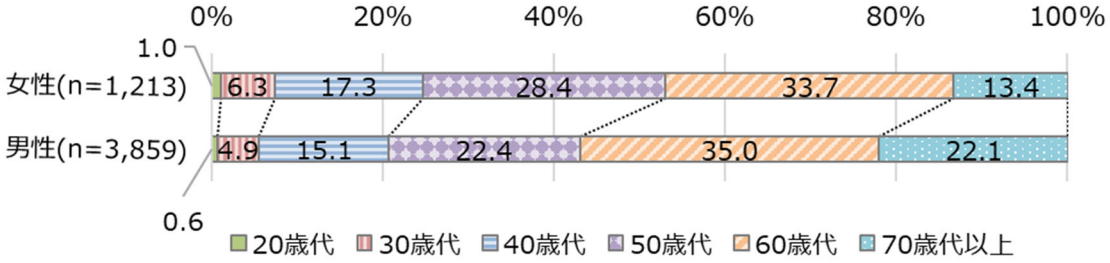
Ⅰ．回答者自身について

図 4-3-1 性別（SA）：基本集計結果



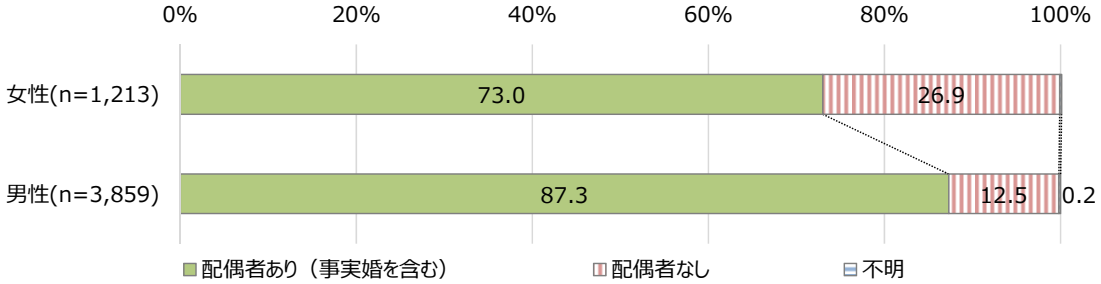
地方議会議員の回答者は 5,075 名であり、女性が 1,213 名（23.9%）、男性が 3,859 名（76.0%）、性別無回答 3 名（0.1%）だった。なお、性別無回答者については、次設問以降の分析対象より除外している。

図 4-3-2 年代（SA）：基本集計結果



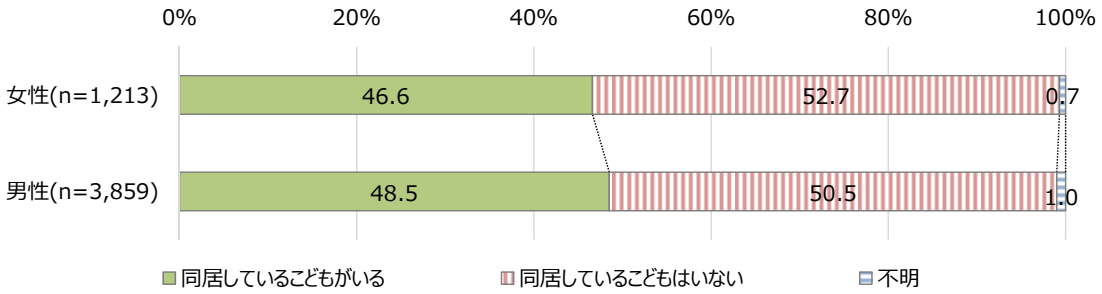
男女ともに「60 歳代」（女性 33.7%、男性 35.0%、）と回答した割合が最も高く、次いで女性は、「50 歳代」（28.4%）、「40 歳代」（17.3%）、「70 歳代」（13.4%）と続いた。

図 4-3-3 婚姻状況（SA）：基本集計結果



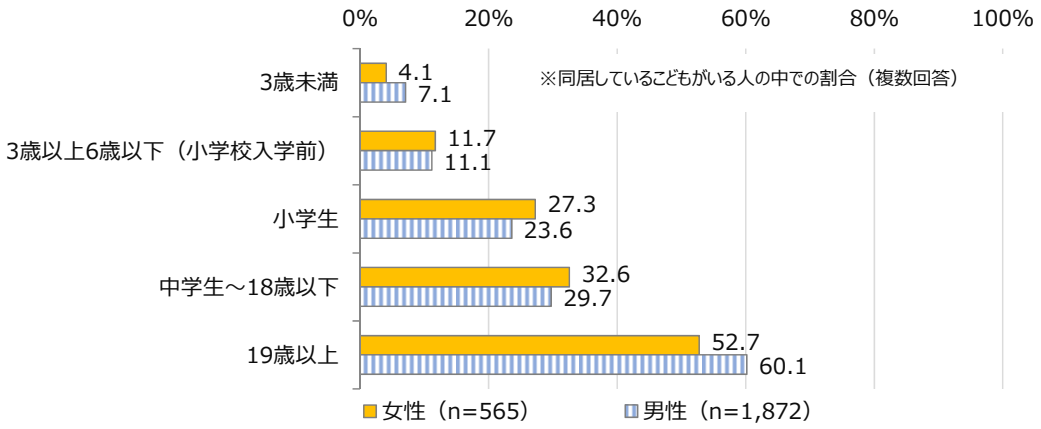
男女ともに「配偶者あり（事実婚を含む）」と回答した割合が高く、女性は約 7 割、男性は約 9 割であった。

図 4-3-4 同居しているこどもの有無（SA）：基本集計結果



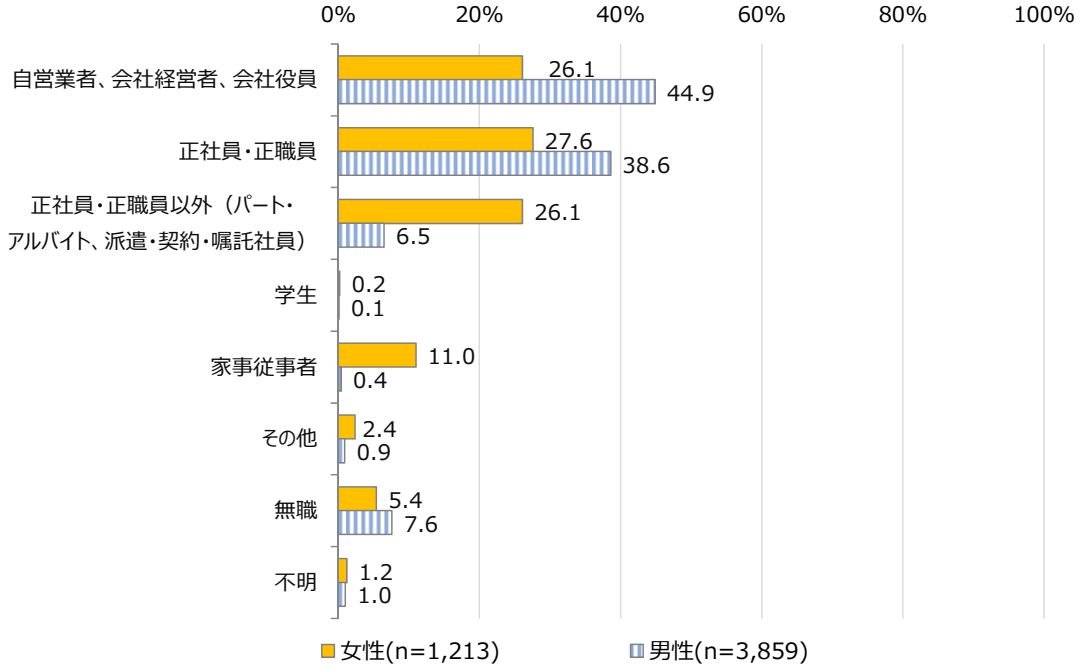
男女差はほとんどみられず、回答者の約半数が「同居しているこどもがいる」との回答であった。

図 4-3-5 同居しているこどもの年齢（MA）：基本集計結果



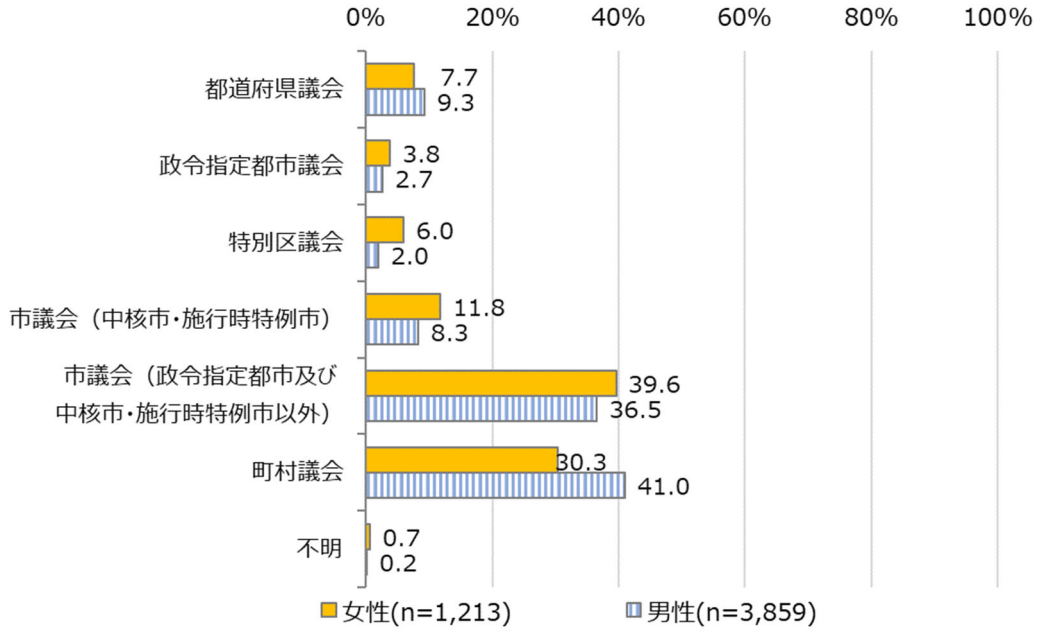
男女ともに「19 歳以上」のこどもと同居していると回答した割合が最も高かった。なお、同居しているこどもが複数いる場合には、全てのこどもについて回答を得ている。

図 4-3-6 議員に当選する直前の就業状況（SA）：基本集計結果



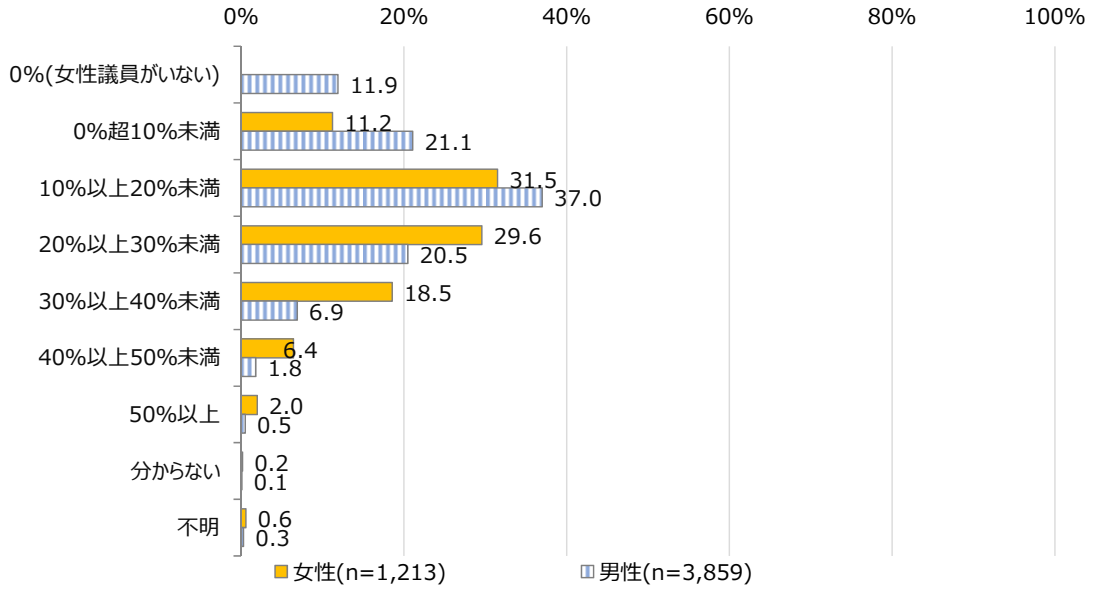
女性は僅差ではあるものの、「正社員・正職員」(27.6%)、男性は「自営業者・会社経営者・会社役員」(44.9%)と回答した割合が最も高かった。「正社員・正職員以外（パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員)」では、男女で 19.6 ポイントの差があり、大きな男女差がみられた。

図 4-3-7 所属議会（SA）：基本集計結果



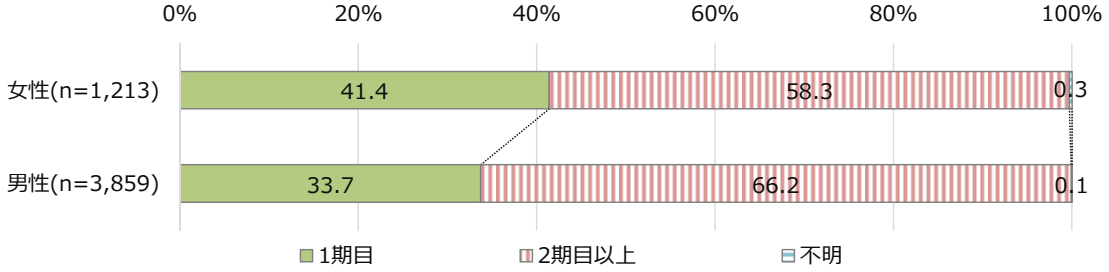
女性は「市議会（政令指定都市及び中核市・施行時特例市以外）」（39.6%）と回答した割合が最も高く、男性は「町村議会」（41.0%）であった。

図 4-3-8 所属議会における女性議員の割合（SA）：基本集計結果



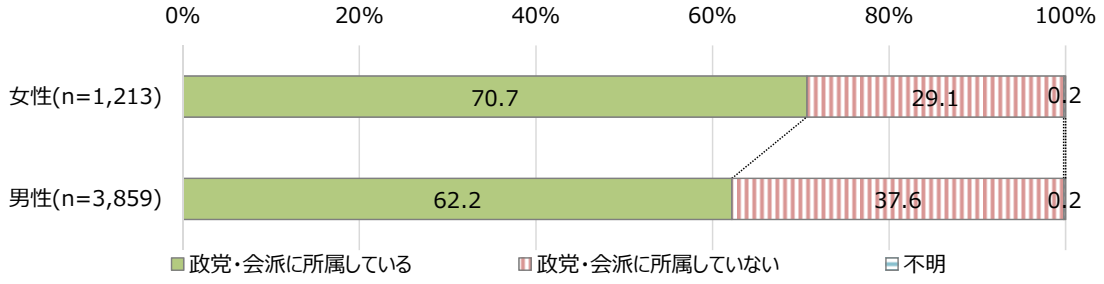
男女ともに「10%以上 20%未満」（女性 31.5%、男性 37.0%）と回答した割合が最も高かった。

図 4-3-9 議員キャリア（SA）：基本集計結果



男女ともに「2 期目以上」（女性 58.3%、男性 66.2%）と回答した割合が多かった。

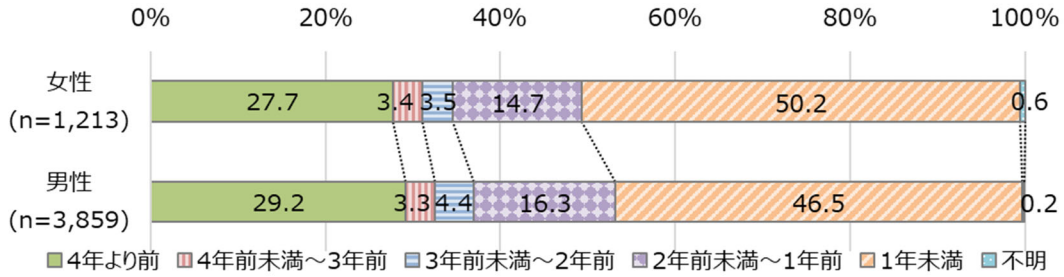
図 4-3-10 政党又は会派への所属（SA）：基本集計結果



男女ともに「政党・会派に所属している」（女性 70.7%、男性 62.2%）と回答した割合が多かった。

Ⅱ. 立候補時から当選後の議員活動中の状況、課題等について

図 4-3-11 初めて立候補を決断した時期（SA）：基本集計結果



男女ともに初めて立候補した選挙を起点として、「1 年未満」（女性 50.2%、男性 46.5%）と回答した割合が最も高かった。

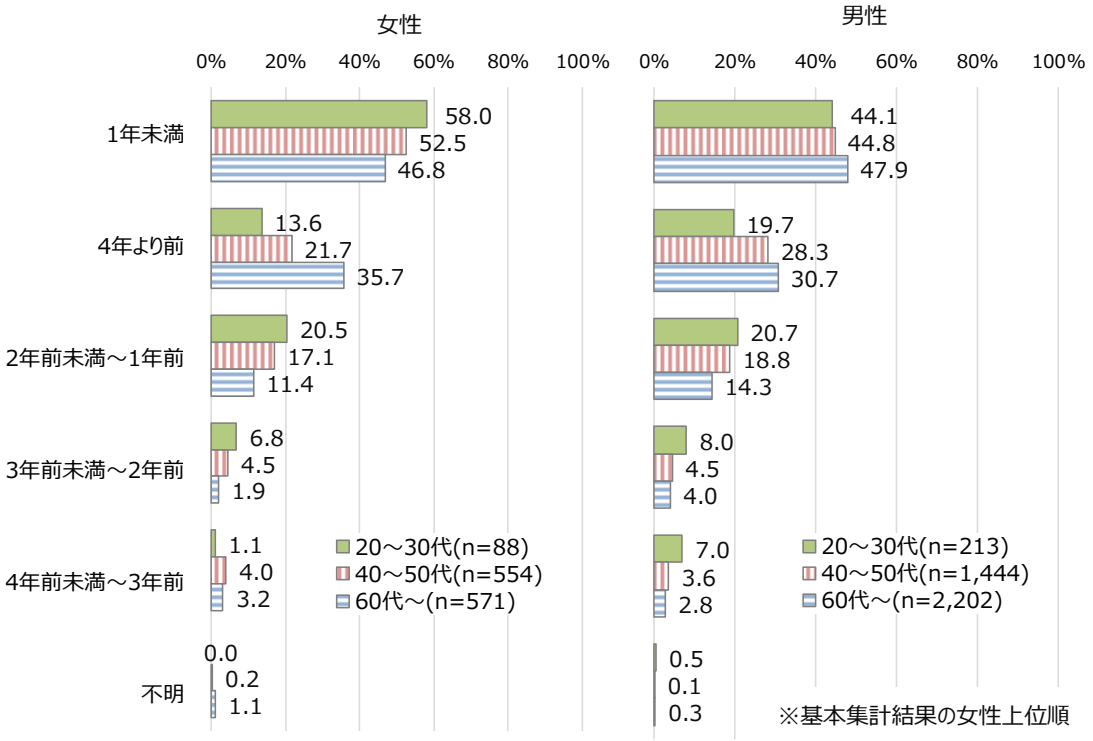
表 4-3-12 初めて立候補を決断した時期（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	1年未満	50.2 (1位)	46.5 (1位)	+3.7
2	2年前未満～1年前	14.7 (3位)	16.3 (3位)	▲1.6
3	4年より前	27.7 (2位)	29.2 (2位)	▲1.5
4	3年前未満～2年前	3.5 (4位)	4.4 (4位)	▲0.9
5	4年前未満～3年前	3.4 (5位)	3.3 (5位)	+0.1

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

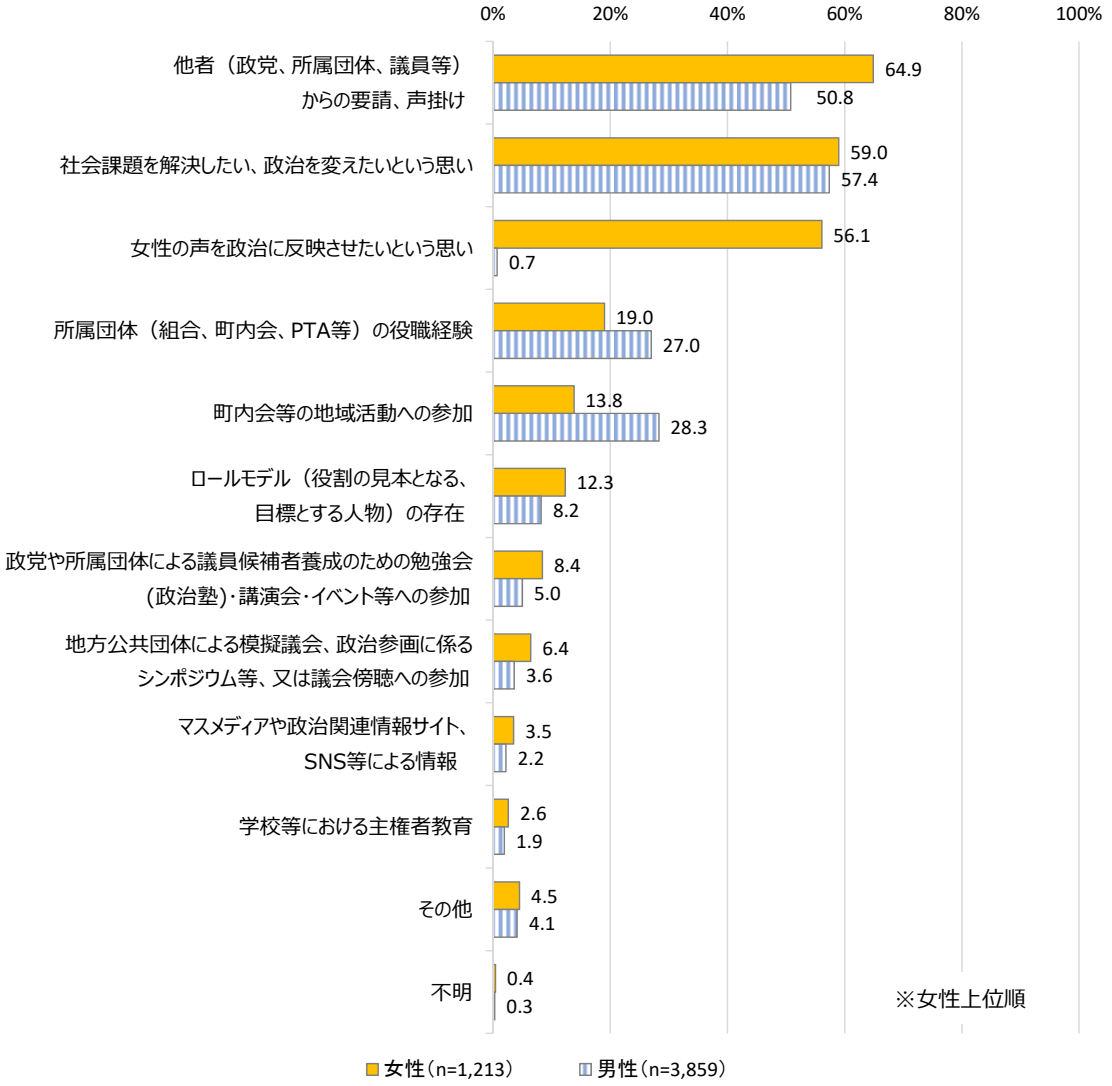
男女のポイントでは、特筆するような大きな差はみられなかった。

図 4-3-13 初めて立候補を決断した時期（SA）：性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、男女ともに、いずれの年代においても「1 年未満」と回答した割合が最も高いが、「4 年より前」との回答においては、特に女性の 60 代以降が他の年代と比べると高くなっている。

図 4-3-14 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：基本集計結果



女性は「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」（64.9%）と回答した割合が最も高く、次いで、「社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い」（59.0%）、「女性の声を政治に反映させたいという思い」（56.1%）であった。

一方、男性は「社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い」（57.4%）と回答した割合が最も高く、次いで、「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」（50.8%）、「町内会等の地域活動への参加」（28.3%）であった。

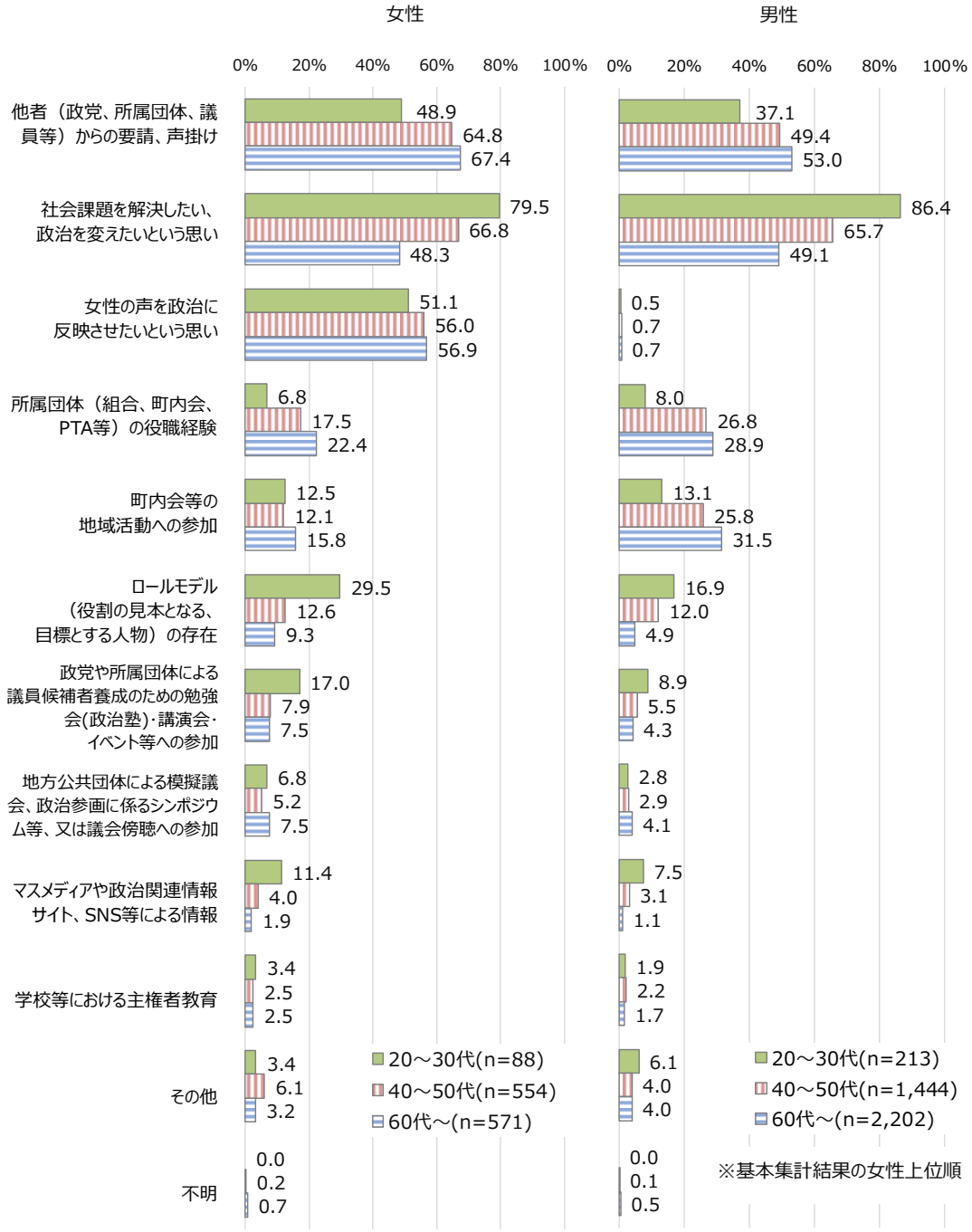
表 4-3-15 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	**女性の声を政治に反映させたいという思い**	**56.1** **(3位)**	**0.7** **(10位)**	**＋55.4**
2	**町内会等の地域活動への参加**	**13.8** **(5位)**	**28.3** **(3位)**	**▲14.5**
3	**他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け**	**64.9** **(1位)**	**50.8** **(2位)**	**＋14.1**
4	所属団体（組合、町内会、PTA等）の役職経験	19.0 (4位)	27.0 (4位)	▲8.0
5	ロールモデル（役割の見本となる、目標とする人物）の存在	12.3 (6位)	8.2 (5位)	+4.1
6	政党や所属団体による議員候補者養成のための勉強会(政治塾)・講演会・イベント等への参加	8.4 (7位)	5.0 (6位)	＋3.4
7	地方公共団体による模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等、又は議会傍聴への参加	6.4 (8位)	3.6 (7位)	＋2.8
8	社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い	59.0 (2位)	57.4 (1位)	+1.6
9	マスメディアや政治関連情報サイト、SNS等による情報	3.5 (9位)	2.2 (8位)	＋1.3
10	学校等における主権者教育	2.6 (10位)	1.9 (9位)	＋0.7

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

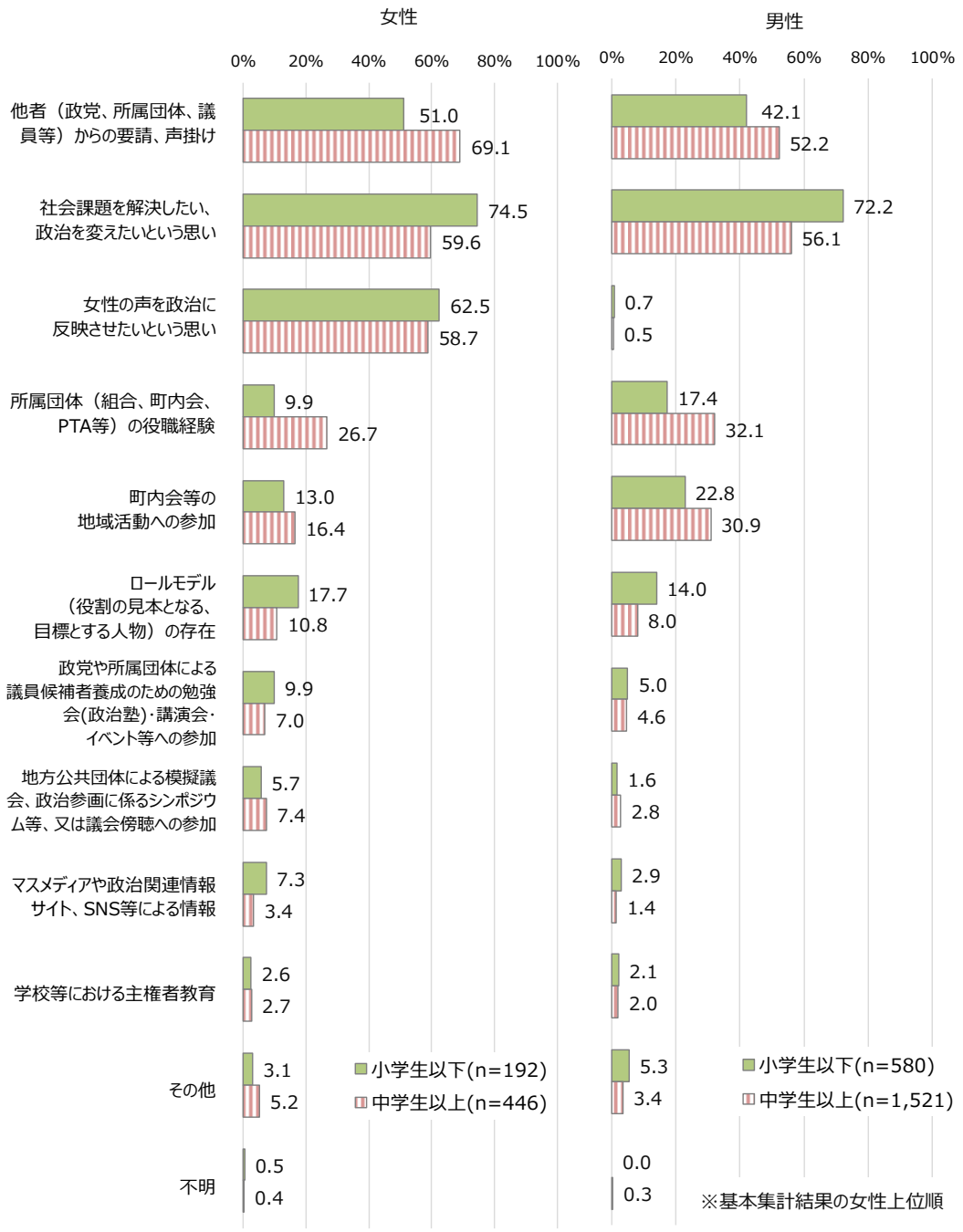
女性と男性でポイント差が最も大きかったものは、「女性の声を政治に反映させたいという思い」であり、女性の方が 55.4 ポイント高かった。次に「町内会等の地域活動への参加」が続き、男性の方が 14.5 ポイント高かった。3 位は「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」であり、女性の方が 14.1 ポイント高かった。政党等から立候補の要請を受けたことを契機に、議員となった女性が多いことがうかがえる。

図 4-3-16 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：性・年代別のクロス分析結果



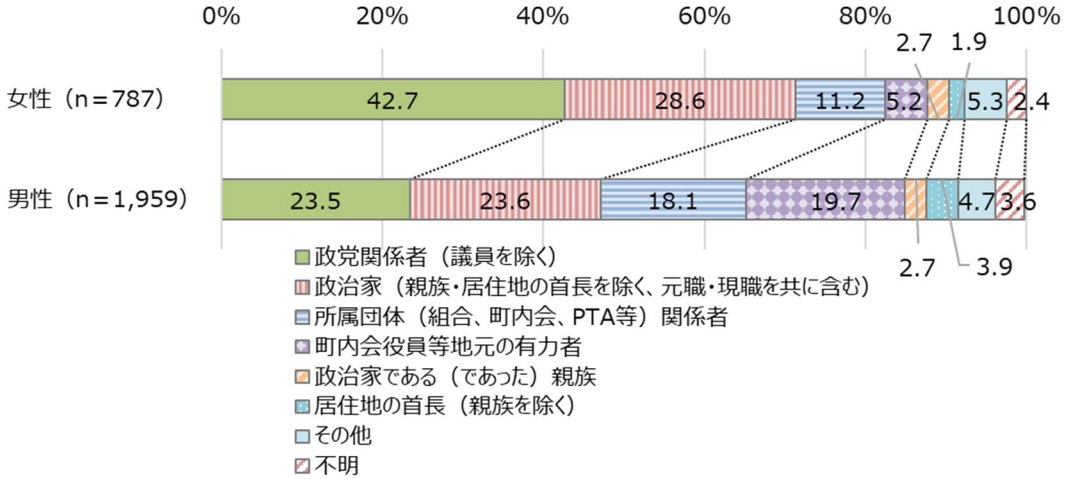
年代別にみると、女性の 60 代以降は「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」が 1 位だったのに対し、20～30 代及び 40～50 代では「社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い」が 1 位となった。この傾向は男性でも同様であった。なお、女性 20～30 代及び 40～50 代の「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」の順位はそれぞれ 3 位、2 位であった。

図 4-3-17 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：性・同居しているこどもの年齢別のクロス分析結果



同居しているこどもの年齢別にみると、女性では、中学生以上のこどもと同居している人は「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」が 1 位であり、小学性以下のこどもと同居している人とのポイント差は、18.1 ポイントであった。

図 4-3-18 誰からの要請を受けたか（SA）：基本集計結果



前問で、立候補したきっかけが「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」と回答した人に、誰からの要請・声掛けであったかを尋ねたところ、女性では「政党関係者（議員を除く）」（42.7%）と回答した割合が最も高く、次いで、「政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）」（28.6%）であった。

表 4-3-19 誰からの要請を受けたか（SA）：性差ポイント順位表

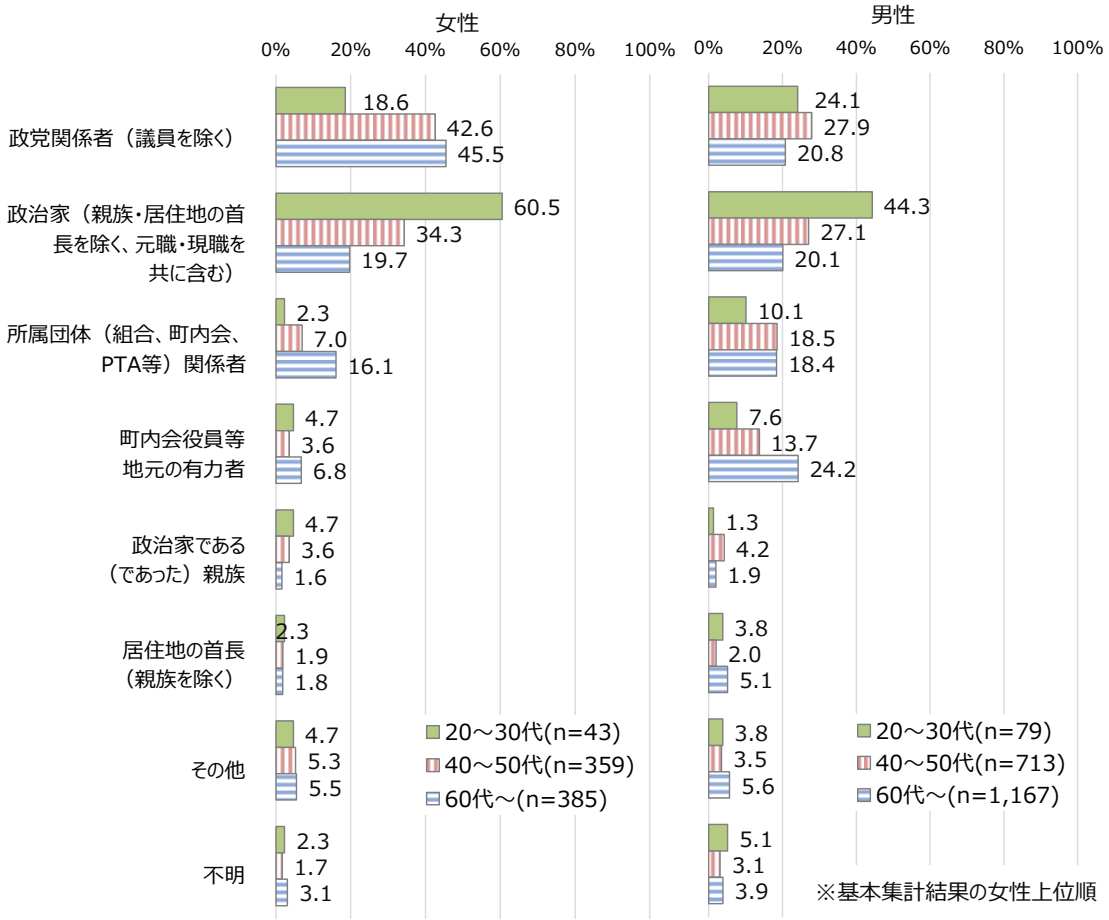
順位 （性差ポイント順）	調査項目	女性 （n=787）	男性 （n=1,959）	性差ポイント （女性－男性）
1	**政党関係者（議員を除く）**	**42.7** **（1位）**	**23.5** **（2位）**	**+19.2**
2	**町内会役員等地元の有力者**	**5.2** **（4位）**	**19.7** **（3位）**	**▲14.5**
3	所属団体（組合、町内会、PTA等）関係者	11.2 （3位）	18.1 （4位）	▲6.9
4	政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）	28.6 （2位）	23.6 （1位）	＋5.0
5	居住地の首長（親族を除く）	1.9 （6位）	3.9 （5位）	▲2.0
6	政治家である（であった）親族	2.7 （5位）	2.7 （6位）	0.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性でポイント差が最も大きかったものは、「政党関係者（議員を除く）」であり、女性の方が 19.2 ポイント高かった。次に「町内会役員等地元の有力者」が続き、こちらは男性の方が 14.5 ポイント高かった。

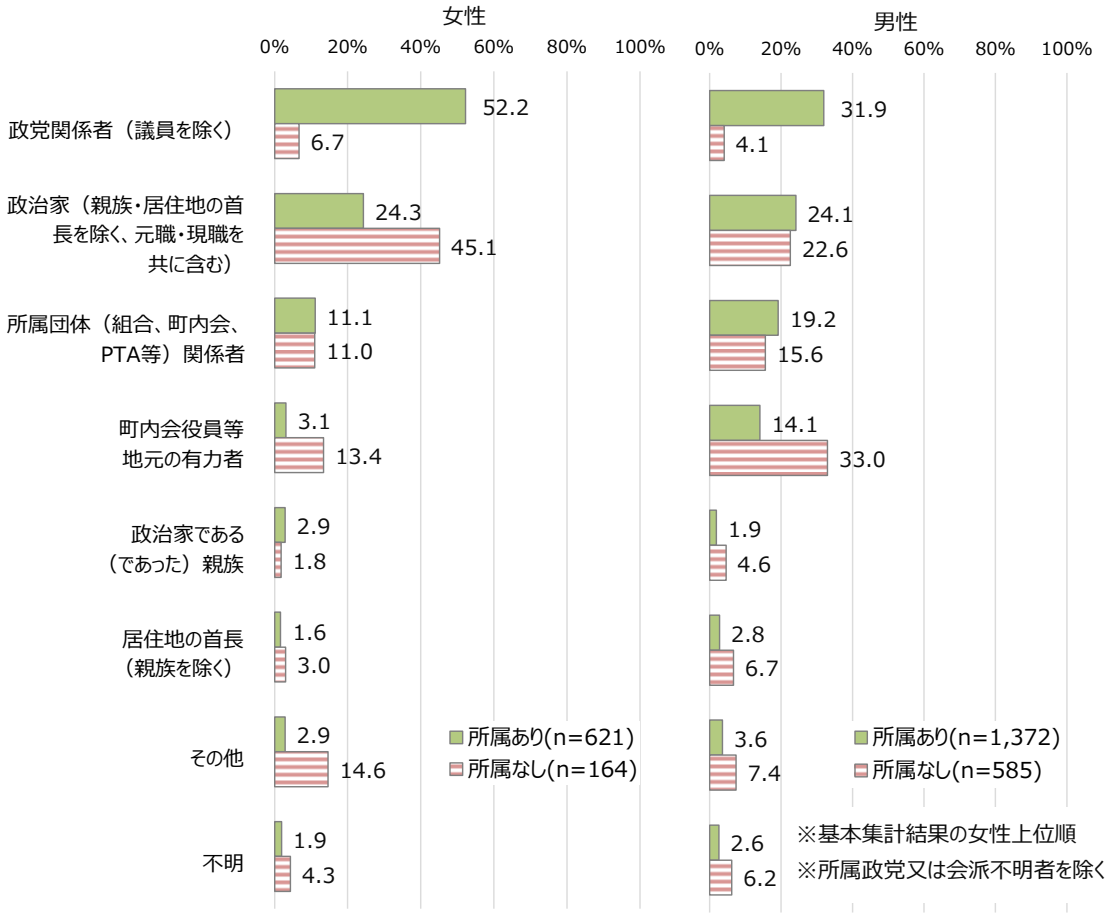
女性は、政党関係者からの声掛けが立候補のきっかけとなることが多く、男性はそれに加え、町内会役員等地元の有力者からの声掛けが立候補のきっかけになることが多く、要請を受ける傾向に差があることがわかる。

図 4-3-20 誰からの要請を受けたか（SA）：性・年代別のクロス分析結果



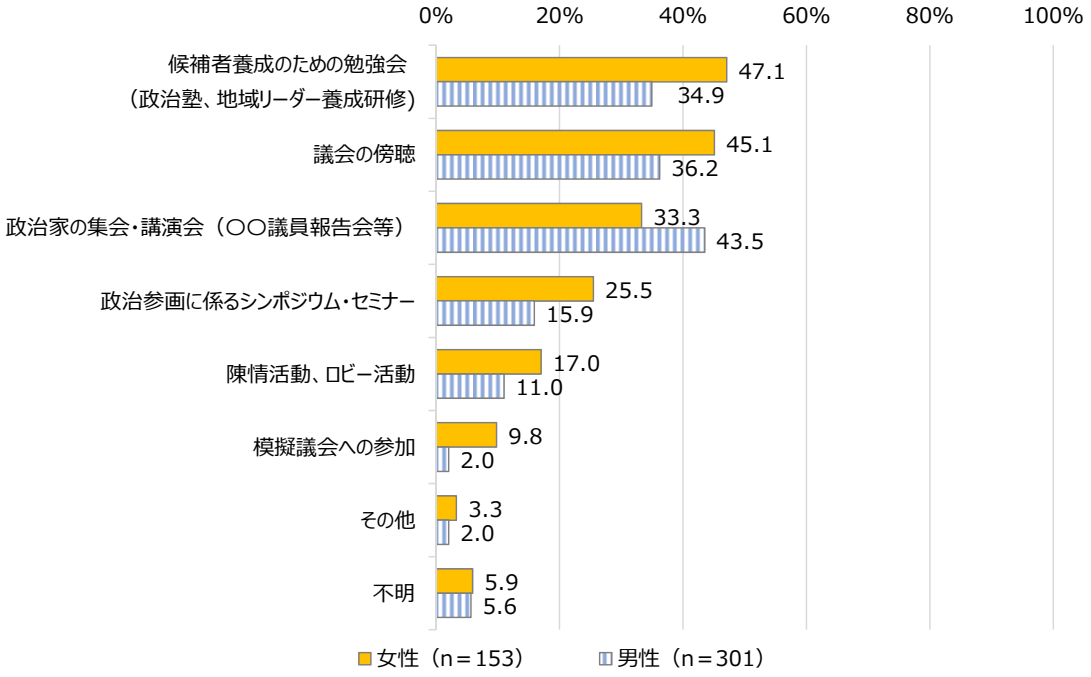
年代別にみると、「政党関係者（議員を除く）」は、女性の 40～50 代及び 60 代以降で 4 割以上の回答があり 1 位であったが、女性の 20～30 代に対象を絞ると 20%にも満たず、「政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）」が 1 位で半数以上となった。男性の 40～50 代は「政党関係者（議員を除く）」が 1 位だったが、男性の 20～30 代では女性の 20～30 代と同様に、「政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）」が 1 位で半数近くとなった。男性の 60 代以降については「町内会役員等地元の有力者」が 1 位となり、年代で大きな差がみられた。

図 4-3-21 誰からの要請を受けたか（SA）：性・政党又は会派への所属有無別のクロス分析結果



政党・会派への所属別にみると、男女ともに所属ありの回答者の 1 位は「政党関係者（議員を除く）」であり、所属なしの女性の 1 位は「政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）」、所属なしの男性の 1 位は「町内会役員等地元の有力者」であった。

図 4-3-22 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになった勉強会やイベント等（MA）：基本集計結果



立候補したきっかけが「政党や所属団体による議員候補者養成のための勉強会（政治塾）・講演会・イベント等への参加」又は「地方公共団体による模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等、又は議会傍聴への参加」と回答した人に、具体的な内容を尋ねたところ、女性では「候補者養成のための勉強会（政治塾、地域リーダー養成研修）」（47.1%）と回答した割合が最も高く、次いで、「議会の傍聴」（45.1%）、「政治家の集会・講演会（〇〇議員報告会等）」（33.3%）であった。

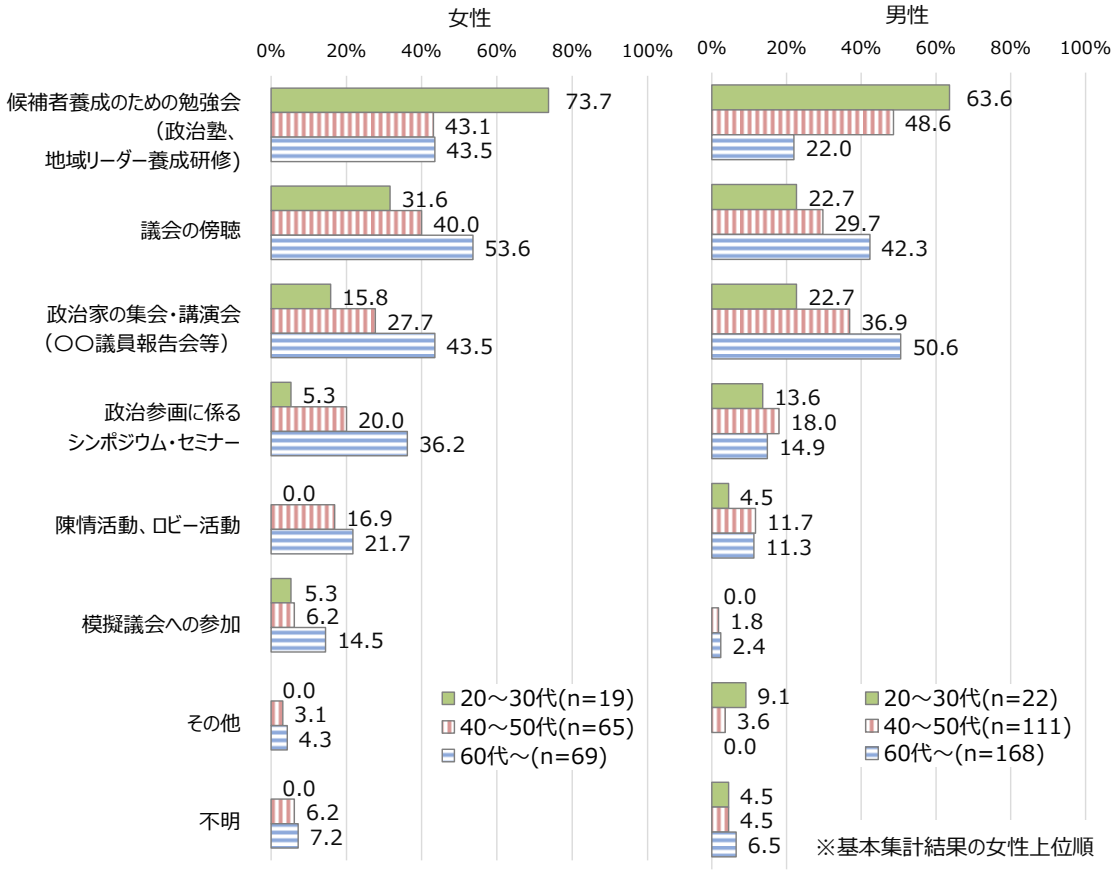
表 4-3-23 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになった勉強会やイベント等（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=153)	男性 (n=301)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**候補者養成のための勉強会（政治塾、地域リーダー養成研修）**	**47.1 (1位)**	**34.9 (3位)**	**+12.2**
2	**政治家の集会・講演会（〇〇議員報告会等）**	**33.3 (3位)**	**43.5 (1位)**	**▲10.2**
3	政治参画に係るシンポジウム・セミナー	25.5 (4位)	15.9 (4位)	+9.6
4	議会の傍聴	45.1 (2位)	36.2 (2位)	+8.9
5	模擬議会への参加	9.8 (6位)	2.0 (6位)	+7.8
6	陳情活動、ロビー活動	17.0 (5位)	11.0 (5位)	+6.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

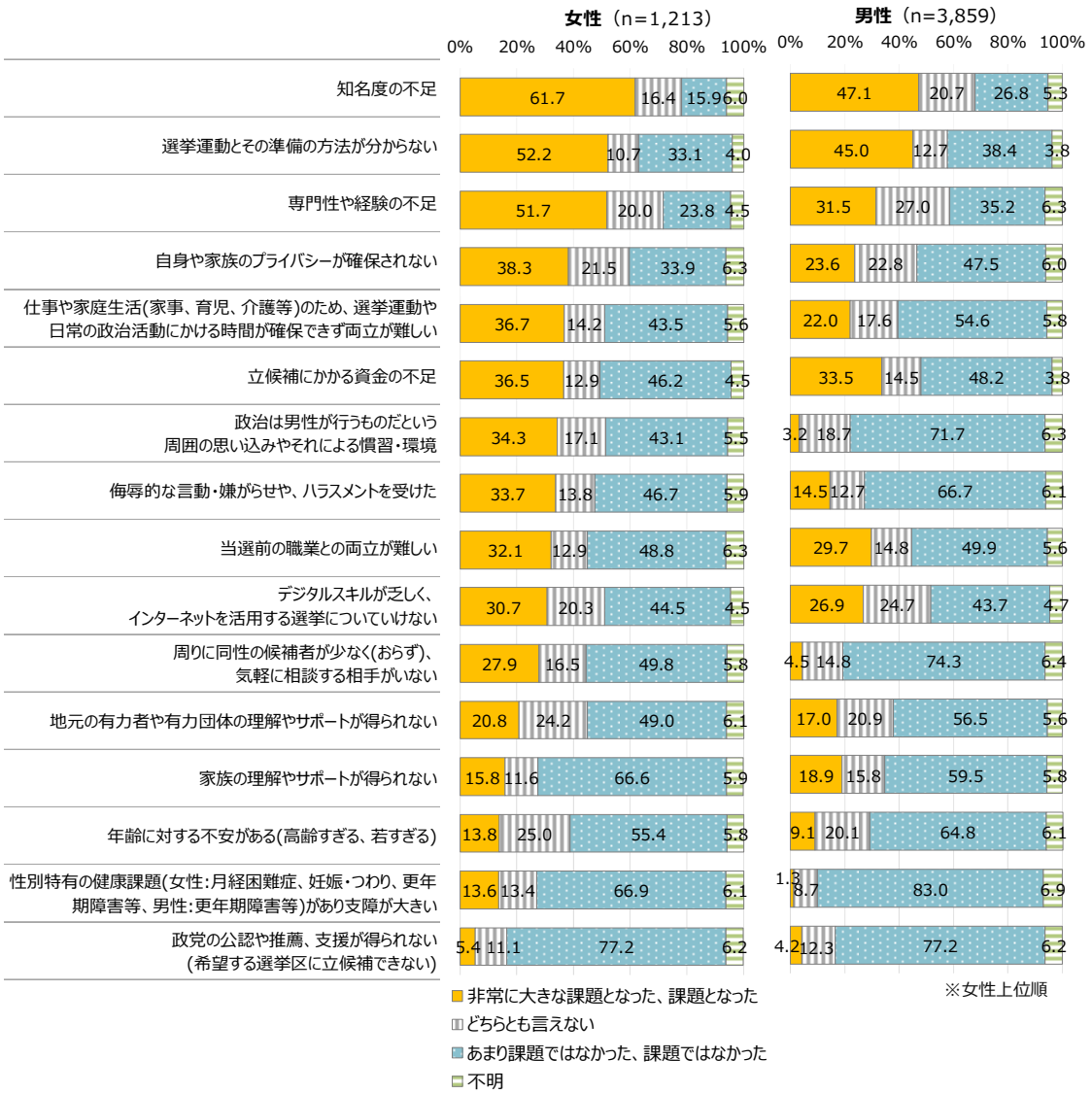
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「候補者養成のための勉強会（政治塾、地域リーダー養成研修）」であり、女性の方が 12.2 ポイント高かった。次に「政治家の集会・講演会（〇〇議員報告会等）」が続き、男性の方が 10.2 ポイント高かった。

図 4-3-24 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになった勉強会やイベント等（MA）：性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、男女ともに 20～30 代及び 40～50 代では「候補者養成のための勉強会（政治塾、地域リーダー養成研修）」と回答した割合が最も高かった。一方、60 代以降では男女に差がみられ、女性の 60 代以降では「議会の傍聴」、男性の 60 代以降では「政治家の集会・講演会（〇〇議員報告会等）」がそれぞれ半数以上の回答となった。

図 4-3-25 立候補を決断してから当選するまでの間の課題とその程度（SA）：基本集計結果



男女ともに「知名度の不足」（女性 61.7%、男性 47.1%）と回答した割合が最も高く、次いで女性の上位項目は「選挙運動とその準備方法が分からない」（52.2%）、「専門性や経験の不足」（51.7%）、「自身や家族のプライバシーが確保されない」（38.3%）、「仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい」（36.7%）であった。

表 4-3-26 立候補を決断してから当選するまでの間の課題とその程度（SA）：性差ポイント順位表

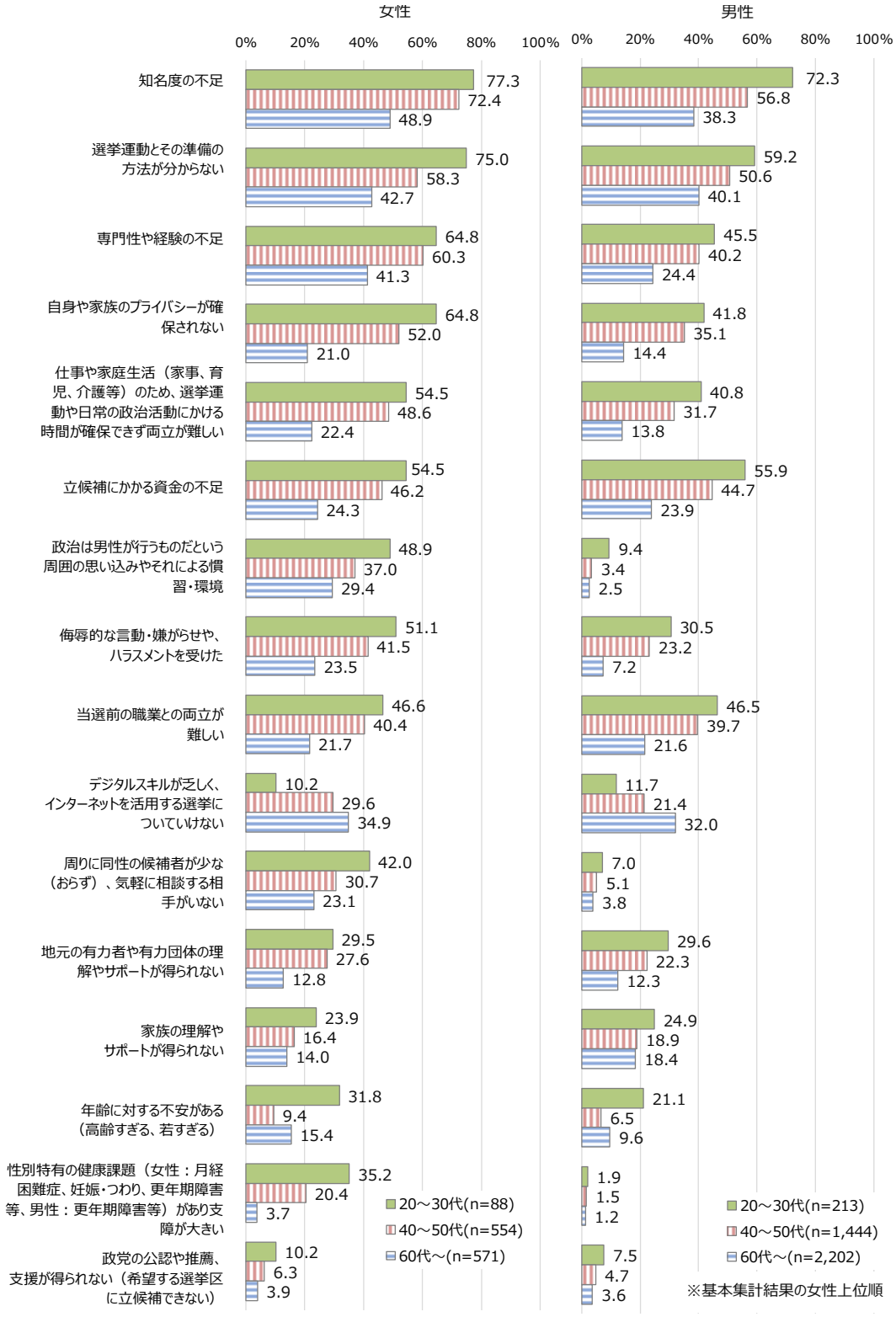
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	**政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境**	**34.3 (7位)**	**3.2 (15位)**	**+31.1**
2	**周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない**	**27.9 (11位)**	**4.5 (13位)**	**+23.4**
3	**専門性や経験の不足**	**51.7 (3位)**	**31.5 (4位)**	**+20.2**
4	**侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた**	**33.7 (8位)**	**14.5 (11位)**	**+19.2**
5	**自身や家族のプライバシーが確保されない**	**38.3 (4位)**	**23.6 (7位)**	**+14.7**
5	**仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい**	**36.7 (5位)**	**22.0 (8位)**	**+14.7**
7	**知名度の不足**	**61.7 (1位)**	**47.1 (1位)**	**+14.6**
8	**性別特有の健康課題（女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい**	**13.6 (15位)**	**1.3 (16位)**	**+12.3**
9	選挙運動とその準備の方法が分からない	52.2 (2位)	45.0 (2位)	+7.2
10	年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）	13.8 (14位)	9.1 (12位)	+4.7
11	デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙についていけない	30.7 (10位)	26.9 (6位)	+3.8
11	地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない	20.8 (12位)	17.0 (10位)	+3.8
13	家族の理解やサポートが得られない	15.8 (13位)	18.9 (9位)	▲3.1
14	立候補にかかる資金の不足	36.5 (6位)	33.5 (3位)	+3.0
15	当選前の職業との両立が難しい	32.1 (9位)	29.7 (5位)	+2.4
16	政党の公認や推薦、支援が得られない（希望する選挙区に立候補できない）	5.4 (16位)	4.2 (14位)	+1.2

※男女の回答割合は「非常に大きな課題となった」及び「課題となった」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」で、女性の方が 31.1 ポイント高かった。次に「周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない」、「専門性や経験の不足」が続き、それぞれ女性の方が 23.4 ポイント、20.2 ポイント高かった。

ほぼ全ての項目について女性の方がポイントが高く、女性の方がより課題と感じていると思われる。

図 4-3-27 立候補を決断してから当選するまでの間の課題とその程度（SA）：性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、女性はどの年代においても「知名度の不足」と回答した割合が最も高かったのに対し、男性の 60 代以降は「選挙運動とその準備の方法が分からない」と回答した割合が最も高かった。

議員になるに当たって、不足していた専門性や経験（FA）

「専門性や経験の不足」が「非常に大きな課題となった」、「課題となった」と回答した人に対し、議員になるに当たって必要な専門性・経験として、何が最も不足していたと考えるか自由記述で回答を求めたところ、1,610 件の回答があった。

回答を分類すると、男女ともに回答の 35%以上が、「行財政、地方自治の仕組み」に関するものであった。具体的な回答としては、「一般企業で働いていたものからすると、行政の方や政治家とは、一般常識がかなり違う気がするので、上手くやっていけるのかが心配だった」、「行政の動き、内容等漠然とした事しかわからず、不安だった。又、女性としてどこまで対応出来るか、ネットに関しても無知である」といった回答がみられた。

続いて、「選挙方法・資金・ノウハウ」、「議会運営や規則・慣行」に関する回答があり、具体的な内容としては、「SNS の発信、動画編集・配信を自分で行なうが、一つひとつの作業に時間が掛かってあまり上手く出来なかった。街頭演説や訪問、ニュース作成も得意ではないと改めて実感した」、「議会の仕組みの理解が不足していた。無所属で当選、活動しているが、党の会派に所属している人と差がありすぎる。議会広報紙に掲載されない、質問時間が短い、発言権がないなど」といった回答があった。

また、下記の項目に分類されないその他の専門性や経験として「街頭演説」や「自分を売り込む経験」など、自らをアピールすることが難しかったことがうかがえる。また「政治に対する知識」が不足していたという回答も多くみられた。

図 4-3-28 議員になるに当たって、不足していた専門性や経験（FA）：アフターコーディングによる分析結果

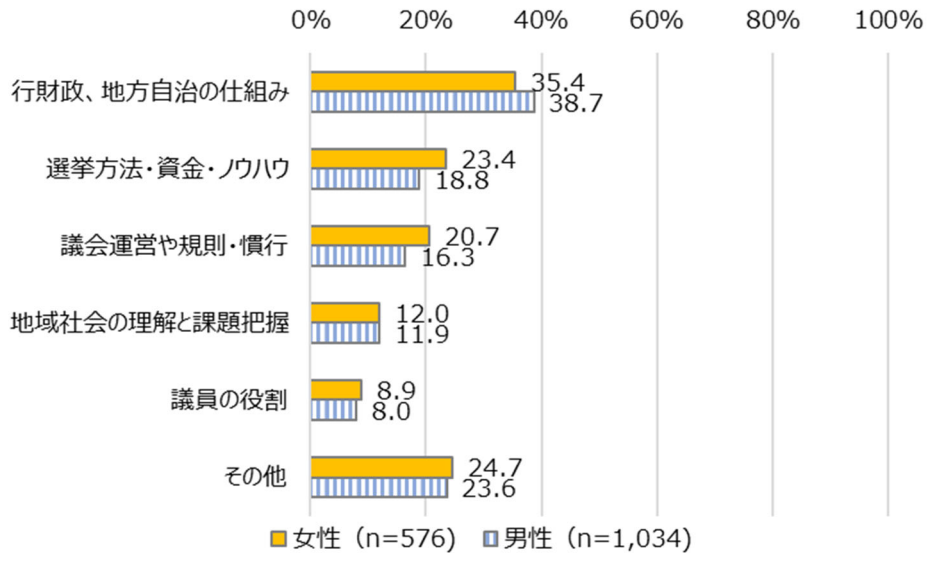


表 4-3-29 議員になるに当たって、不足していた専門性や経験（FA）：自由記述の内容

カテゴリ	自由記述の内容
行財政、地方自治の仕組み	・法律や条例の知識がない（男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 50 代） ・予算、決算の見方（男性 30 代、男性 40 代、男性 50 代、女性 40 代、女性 50 代） ・一般企業で働いていたものからすると、行政の方や政治家とは、一般常識がかなり違う気がするので、上手くやっていけるのかが心配だった（女性 50 代） ・日々の活動では総合的な人間力、対話力、対人スキルの能力、スピーチ力がある程度求められる。自治体の仕事や事務全般を知らないと一般質問もできない。議員という仕事には特殊で専門的な能力や知識が必要だと感じる（男性 40 代）
選挙方法・資金・ノウハウ	・立候補に関する手続き（男性 30 代、男性 40 代、男性 60 代） ・選挙ポスターや広報誌をどこに頼めばよいか、選挙に出るために提出する書類作成など、知らないがゆえによって来るたかりのような人もいて、そういったことがわかる手順書のようなものが欲しいと思った（女性 50 代） ・公職選挙法など政治の知識不足。また選挙制度や遊説の仕方。有権者との接し方などさまざまに及ぶ（男性 50 代）

	・人前で話すこと（男性 30 代、男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代） ・選挙活動になにが必要で、どれだけお金がいるのか（男性 60 代）
議会運営や規則・慣行	・議会のしくみや、用語、言い回しなど（男性 50 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代、） ・議会のルール（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代） ・質問の仕方、また質問するにも知識が圧倒的に不足していた（女性 50 代） ・政治家としてやってはいけない事などの専門性。議会などの服装などのこと（男性 40 代）
地域社会の理解と課題把握	・地域課題に関する情報や知識（男性 30 代、男性 40 代、男性 50 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代） ・地域活動の実績（男性 50 代、男性 60 代） ・地域の風習や慣例についての知識が不足していること。結婚や出産を伴い頂いた御礼が違反になるのではと恐怖だった（女性 30 代） ・以前は県外の企業で働いており、定年退職後に地元に戻ってきたので、地元に関する知識や情勢が分からなかった（男性 60 代）
議員の役割	・議員の仕事内容（男性 30 代、男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 60 代、女性 70 代以上） ・議員としての在り方（男性 40 代、男性 60 代） ・事前に研修すること。議員の役割や目的をしっかり持つこと（女性 70 代以上） ・それまで行政や議会などに関わったことがなく、議会議員の根本的な役割や使命感が欠如していた（男性 50 代）

立候補を決断してから当選までの間の不安や悩み（FA）

立候補を決断してから当選までの間に抱えていた不安や悩みに関して自由記述で回答を求めたところ、2,404 件の記述があった。

回答を分類し、男女を比較してみると、女性では 27.2%が「選挙運動とその準備方法」に関する不安や悩みを挙げており、男性の 17.1%と比較して 10 ポイント以上高かった。具体的な記述としては、「看板をどこにお願いし、ポスターや立候補するときのはがきをどうすればいいのか、何ひとつ分からず、戸惑った」、「後援会活動とはどういうものか全くわからなかった。支援者に対する適切な態度とはどういうものかもわからなかった」といっ

た回答があった。

また、女性では 21.2%が「家庭生活との両立」について不安や悩みを抱えていたと回答し、男女差は 13.5 ポイントであった。女性で 18.4%が回答していた「ハラスメント・プライバシー」に関しても、男女差は 10.3 ポイントであった。

具体的な回答としては、「義母の介護をしていたため、立候補にあたり、やむなく施設へ入所していただいた。断腸の思い。お互いに非常に辛かった」、「決断から立候補までに期間が無かった為、家族に負担をかけた。自分がすべての手続きをしなければならず、選挙活動の時間がけずられた」、「同居の義両親の理解を得られるか。候補者や議員になった時、子どもたちが特別な目で見られたりして嫌な思いをするのではないかという不安」といった回答があった。

図 4-3-30 立候補を決断してから当選までの間の不安や悩み（FA）：アフターコーディングによる分析結果

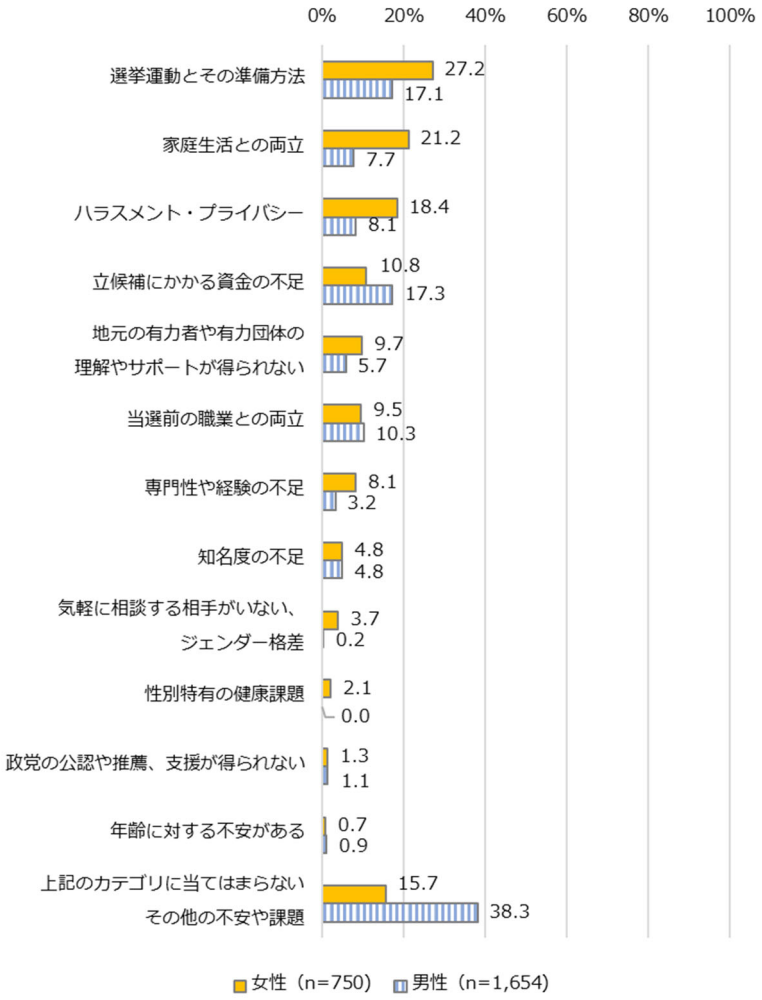


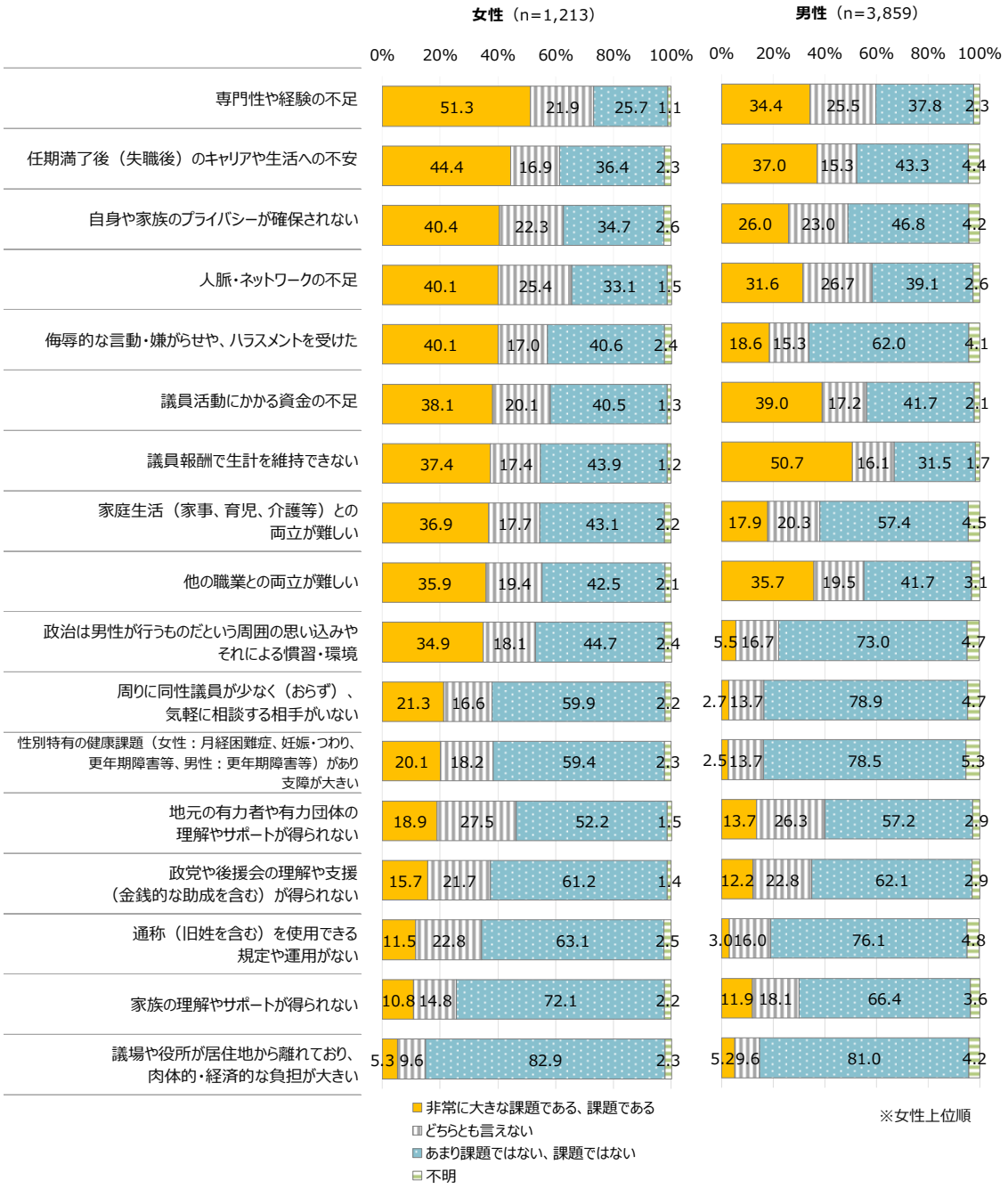
表 4-3-31 立候補を決断してから当選までの間の不安や悩み（FA）：自由記述の内容

カテゴリ	自由記述の内容
選挙運動とその準備方法	・街頭演説や決意表明等、人前で話すこと（男性 40 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代） ・選挙活動のやり方がわからない（男性 30 代、男性 40 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代） ・選挙事務所決め（女性 50 代） ・立候補に係る手続き（男性 60 代）
家庭生活との両立	・家族の賛同が得られなかったこと（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、女性 40 代、女性 50 代） ・子育てとの両立（女性 20 代、女性 30 代、女性 40 代） ・在宅介護をしている母がいるため、両立ができるか不安であった（男性 30 代、男性 60 代、女性 50 代） ・家族、特に子供への経済的な責務に関する問題（男性 60 代）
ハラスメント・プライバシー	・家族を含むプライバシー保護（男性 20 代、男性 30 代、男性 40 代、女性 20 代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代） ・誹謗中傷する怪文書や動画が出回った（女性 60 代） ・議員さんなんだからと何でも好き勝手に言われ、自己犠牲を払わなくてはならなくなること。また、「議員だからお金持ち？何か買おうとしてもお金があっていいよね」と言われる（女性 30 代） ・対抗候補からの嫌がらせ・妨害（男性 60 代）
立候補にかかる資金の不足	・資金不足（男性 20 代、男性 30 代、女性 20 代、女性 40 代、女性 50 代） ・仕事を辞めて準備をしたので、安定的な収入源の確保（男性 40 代、男性 60 代、女性 50 代） ・仕事はギリギリまでやりたかったが、資金関係のため、上からの指示でいつ辞めるのかと何度も言われ、つらかった（女性 50 代）
地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない	・地元出身者でなく、知り合いがいないので協力があまり得られなかったこと（男性 40 代、男性 50 代、男性 70 代以上、女性 50 代） ・組織票(政党、宗教、地元団体)にどう立ち向かうべきか（男性 40 代） ・地元の自治会が認め、実質的な「地元推薦」がないと立候補できない土地柄なので、女性の私が「自治会」の人（男性）たちに認めてもらえるかという不安が一番大きかった（女性 60 代） ・自治会長に相談したら、俺が出たいのになんでアンタが出るんだと言われたので、じゃあ出てくださいと言ったらそんなに甘いもんじゃない！と一喝された。なので、自治会長の応援もなかった（女性 60 代）

カテゴリ	自由記述の内容
当選前の職業との両立	・仕事との両立（男性 30 代、男性 40 代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代） ・会社を辞してまで決断したことへの不安（男性 30 代、男性 40 代、女性 40 代、女性 50 代） ・メディアに関する仕事をしていたので、当選しても落選しても、その業界には戻れないんだろうなあという、好きなものを失う怖さ（女性 20 代） ・仕事が人手不足で、すぐに辞めて選挙準備に専念できなかったこと（女性 50 代）
専門性や経験の不足	・議員活動を行う上での経験・知識・技能等の不足（男性 40 代、男性 60 代、女性 50 代、女性 60 代） ・未経験の分野が多く、自信ある訴えが不足した（男性 60 代） ・古い慣習を経験不足・知識不足で変えることが難しかった（女性 50 代） ・立候補するまでの経験は、限られた課題にしか対応するものでなかったため、訴える内容が狭く、これで良いのかと不安だった（女性 60 代）
知名度の不足	・知名度不足（男性 20 代、男性 30 代、男性 60 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代） ・知名度を上げる方法が分からない（男性 50 代、男性 60 代、女性 40 代） ・地元での知名度が余りなかったので、見えない壁のようなものを時々感じることがあった（男性 50 代） ・知名度不足による、選挙活動中での周囲の無理解、議員としての資質を問うような有権者の言動（女性 60 代）
気軽に相談する相手がいない、ジェンダー格差	・支援者が高齢男性ばかりで、悩みや愚痴を聞いてくれる女性がいなかった（女性 20 代、女性 40 代、女性 50 代） ・父の生まれ故郷だが私の生まれ育った場所では無いため、同級生もおらず気軽に相談できる地域の方がほぼ居なかったこと。田舎なので親戚等からは、落ちた時に妻や子供、身内が可愛そうとか言われたこと（男性 30 代） ・女性の議員として「女性ならでは」「女性らしい」などの謳い文句に違和感を常に感じながらも受け入れざるを得ない状況（女性 60 代） ・この地域では女性は勝てないと言われた（女性 40 代）

カテゴリ	自由記述の内容
性別特有の健康課題	・生理の前後期間は重ためなので頭は回らないし、体は思うように動けず周りの理解を得られるようになんとか無理に動いたりしたことが一番辛かった（女性 30 代） ・健康面で更年期障害があったので政治活動・選挙活動に耐えられるか不安だった（女性 50 代） ・議員活動の中での妊娠出産（女性 50 代）
政党の公認や推薦、支援が得られない	・政党の公認推薦に対して現職がいる場合にチャンスがない（男性 30 代、男性 40 代） ・党の公認を希望していたが結果として公認が得られず推薦となった（女性 30 代、女性 60 代）
年齢に対する不安がある	・若い年齢、独身で立候補することについて「社会経験にかける、家族を持っていなくては政治家として認められない」などと批判されることが複数の場面であった（男性 20 代、男性 30 代、男性 40 代、女性 30 代） ・年齢的な問題と兼職できるか否か（男性 50 代、男性 60 代、女性 60 代、女性 70 代以上） ・76 才と高齢のため、80 才までの 4 年間、健康を維持できるのか、中途で坐折することへの不安があった。今もその悩みを抱えている（男性 70 代以上）
上記のカテゴリに当てはまらないその他の不安や課題	・自身に議員活動が務められるのだろうかという不安（男性 20 代、男性 50 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 60 代） ・当選できるかどうか（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、女性 40 代、女性 50 代） ・公人となったらどういう生活を送れば良いか不安（男性 50 代） ・移住者であることから、地域性が分からず苦労した。親戚等もなく、知人も少ないことから不安は大きかった（女性 50 代）

図 4-3-32 議員活動を行う上での課題とその程度（SA）：基本集計結果



女性は「専門性や経験の不足」（51.3%）と回答した割合が最も高く、次いで、「任期満了後（失職後）のキャリアや生活への不安」（44.4%）、「自身や家族のプライバシーが確保されない」（40.4%）、「人脈・ネットワークの不足」（40.1%）、「侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた」（40.1%）であった。

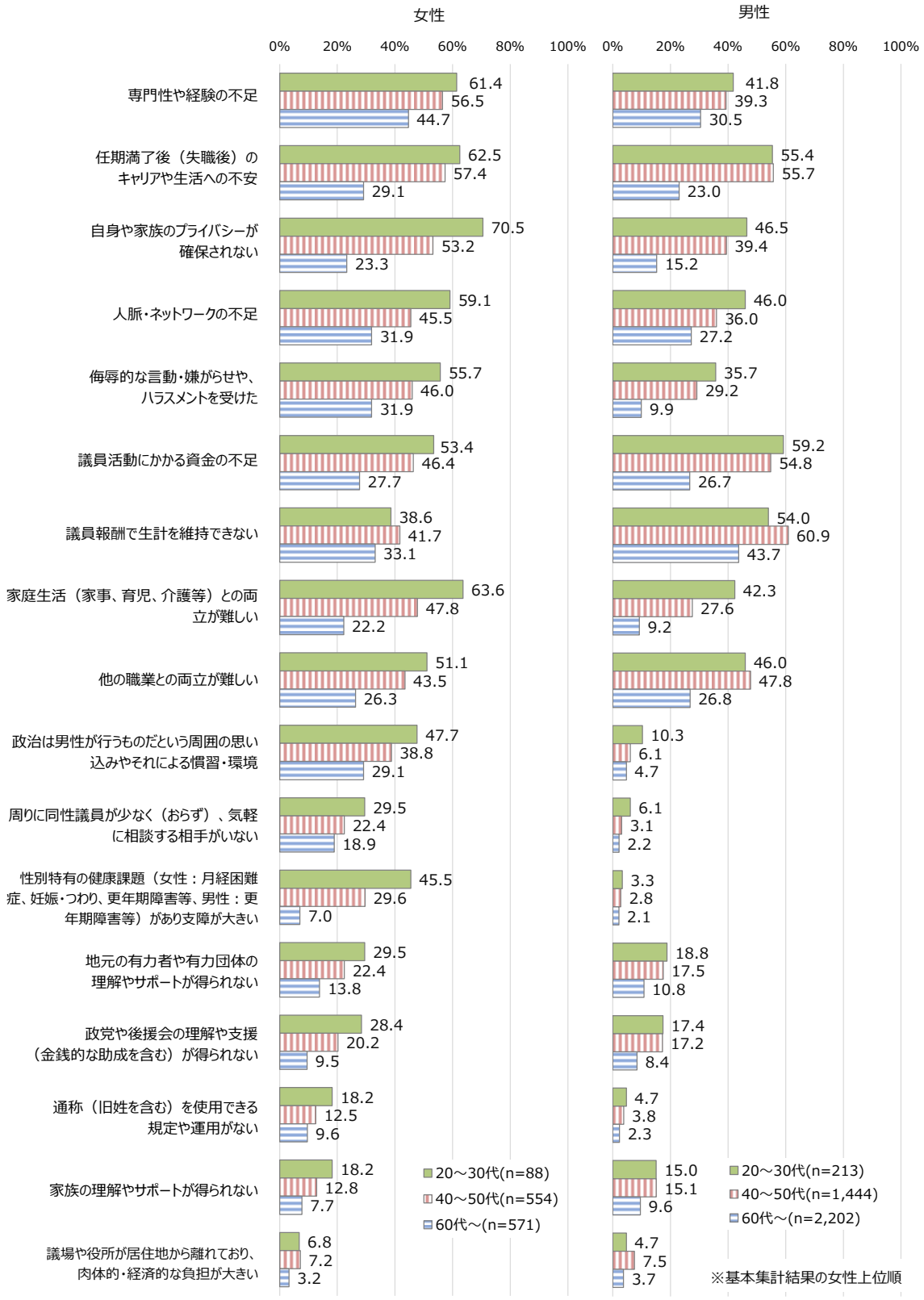
表 4-3-33 議員活動を行う上での課題とその程度（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	**政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境**	**34.9** **(10位)**	**5.5** **(13位)**	**+29.4**
2	**侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた**	**40.1** **(4位)**	**18.6** **(8位)**	**+21.5**
3	**家庭生活（家事、育児、介護等）との両立が難しい**	**36.9** **(8位)**	**17.9** **(9位)**	**+19.0**
4	**周りに同性議員が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない**	**21.3** **(11位)**	**2.7** **(16位)**	**+18.6**
5	**性別特有の健康課題（女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい**	**20.1** **(12位)**	**2.5** **(17位)**	**+17.6**
6	**専門性や経験の不足**	**51.3** **(1位)**	**34.4** **(5位)**	**+16.9**
7	**自身や家族のプライバシーが確保されない**	**40.4** **(3位)**	**26.0** **(7位)**	**+14.4**
8	**議員報酬で生計を維持できない**	**37.4** **(7位)**	**50.7** **(1位)**	**▲13.3**
9	人脈・ネットワークの不足	40.1 (4位)	31.6 (6位)	+8.5
9	通称（旧姓を含む）を使用できる規定や運用がない	11.5 (15位)	3.0 (15位)	+8.5
11	任期満了後（失職後）のキャリアや生活への不安	44.4 (2位)	37.0 (3位)	+7.4
12	地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない	18.9 (13位)	13.7 (10位)	+5.2
13	政党や後援会の理解や支援（金銭的な助成を含む）が得られない	15.7 (14位)	12.2 (11位)	+3.5
14	家族の理解やサポートが得られない	10.8 (16位)	11.9 (12位)	▲1.1
15	議員活動にかかる資金の不足	38.1 (6位)	39.0 (2位)	▲0.9
16	他の職業との両立が難しい	35.9 (9位)	35.7 (4位)	+0.2
17	議場や役所が居住地から離れており、肉体的・経済的な負担が大きい	5.3 (17位)	5.2 (14位)	+0.1

※男女の回答割合は「非常に大きな課題である」及び「課題である」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

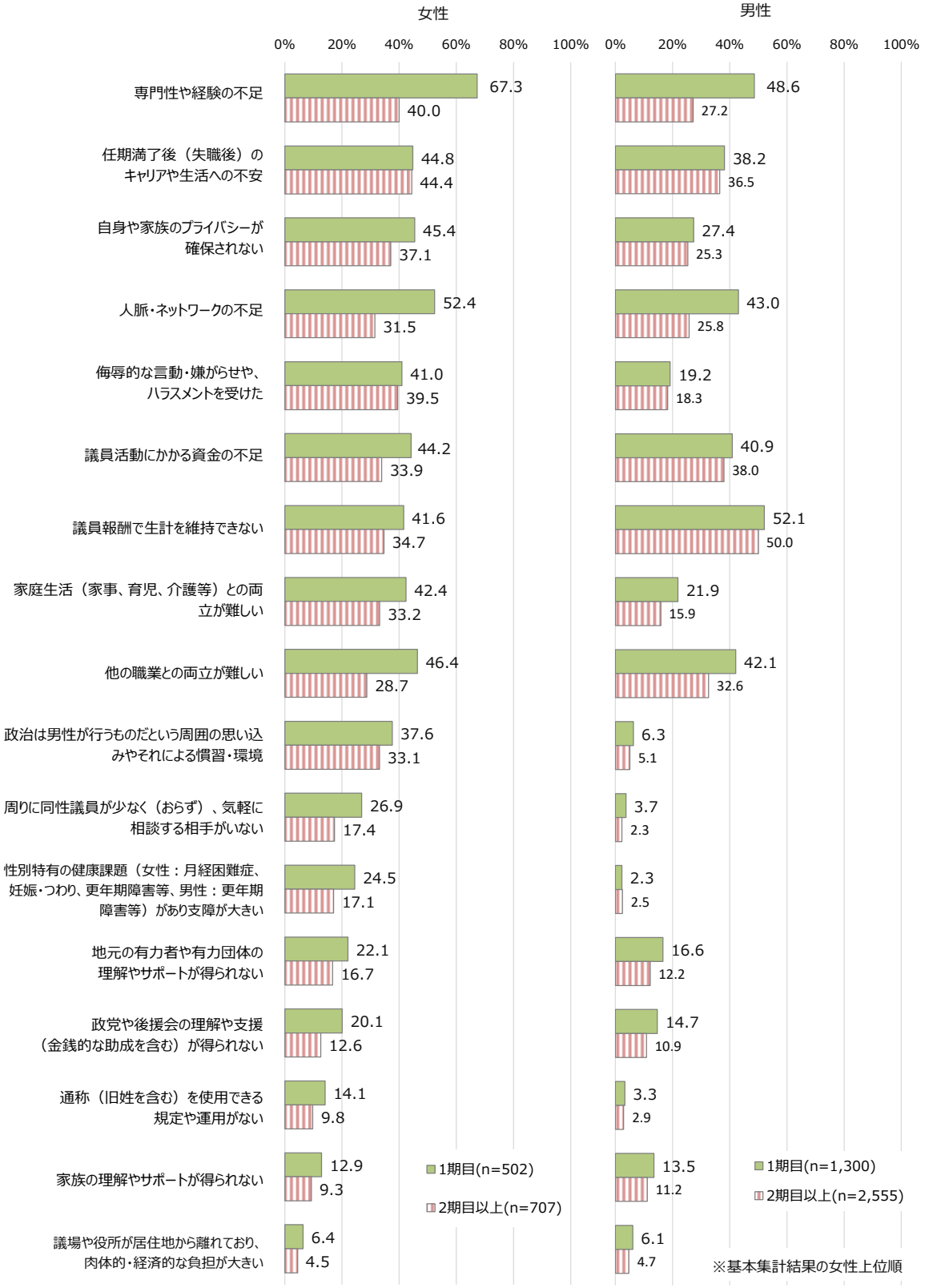
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」で、女性の方が 29.4 ポイント高かった。これは前問の立候補を決断してから当選するまでの課題の結果と同様であった。次に「侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた」が続き、女性の方が 21.5 ポイント高かった。

図 4-3-34 議員活動を行う上での課題とその程度（SA）：性・年代別のクロス分析結果



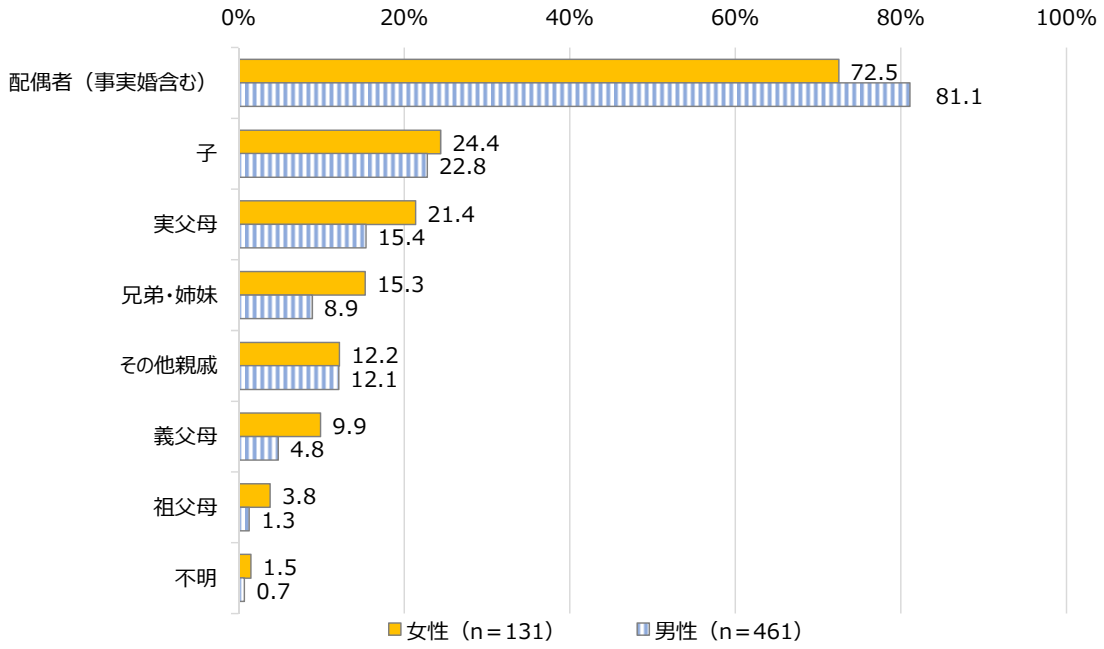
年代別にみると、女性の 20～30 代については、全 17 項目中 15 項目について、「非常に大きな課題である」又は「課題である」と回答した割合が他の年代より高かった。また、男性のうち 20～30 代のおいても、全 17 項目中 12 項目について同様の傾向がみられた。

図 4-3-35 議員活動を行う上での課題とその程度（SA）：性・議員キャリア別のクロス分析結果



議員キャリア別にみると、女性の１期目と２期目以降で 10 ポイント以上の差があったものは「専門性や経験の不足」、「人脈・ネットワークの不足」、「議員活動にかかる資金の不足」、「他の職業との両立が難しい」であり、１期目の方が課題と感じている状況が推察される。

図 4-3-36 家族の誰からの理解やサポートが得られなかったか（MA）：基本集計結果



「家族の理解やサポートが得られない」と回答した人に対し、家族の誰からの理解やサポートが得られなかったかを尋ねたところ、男女ともに「配偶者（事実婚含む）」（女性 72.5%、男性 81.1%）と回答する割合が高かった。

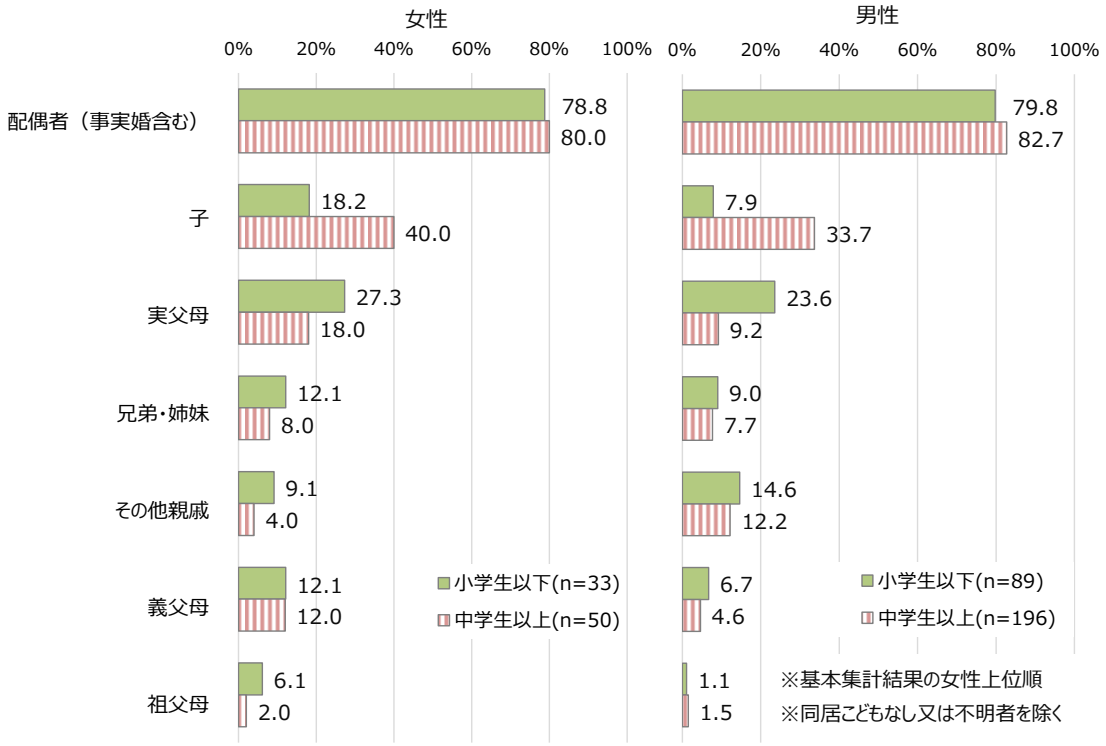
表 4-3-37 家族の誰からの理解やサポートが得られなかったか（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=131)	男性 (n=461)	性差ポイント (女性ー男性)
1	配偶者（事実婚含む）	72.5 (1位)	81.1 (1位)	▲8.6
2	兄弟・姉妹	15.3 (4位)	8.9 (5位)	+6.4
3	実父母	21.4 (3位)	15.4 (3位)	+6.0
4	義父母	9.9 (6位)	4.8 (6位)	+5.1
5	祖父母	3.8 (7位)	1.3 (7位)	+2.5
6	子	24.4 (2位)	22.8 (2位)	+1.6
7	その他親戚	12.2 (5位)	12.1 (4位)	+0.1

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

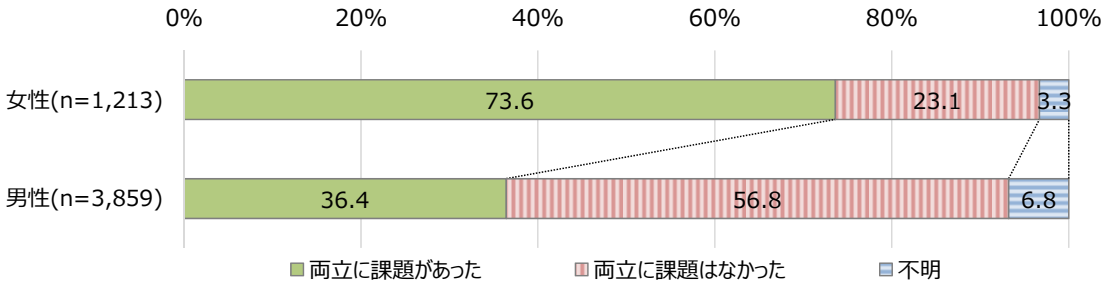
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「配偶者（事実婚含む）」で、男性の方が 8.6 ポイント高かった。「兄弟・姉妹」、「実父母」、「義父母」については女性の方がそれぞれ 6.4 ポイント、6.0 ポイント、5.1 ポイント高かった。

図 4-3-38 家族の誰からの理解やサポートが得られなかったか（MA）：性・同居しているこどもの年齢別のクロス分析結果



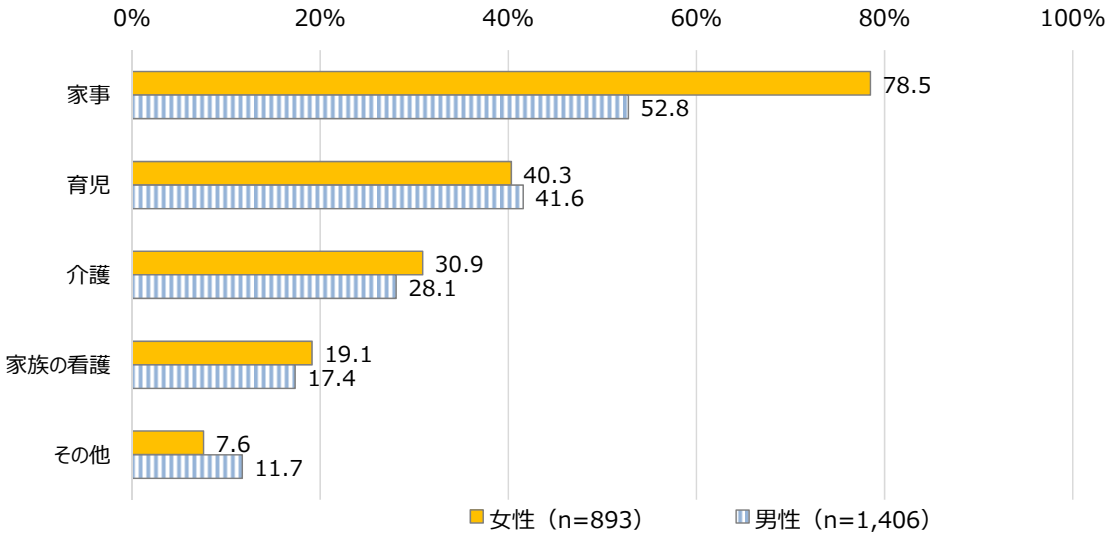
同居しているこどもの年齢別にみると、中学生以上のこどもと同居している人は、男女ともに「子」が 2 位であった。中学生以上のこどもと同居している人は、小学生以下のこどもと同居している人に比べて「子」からの理解やサポートが得られにくい傾向があることがわかる。

図 4-3-39 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（SA）：基本集計結果（両立課題の有無）



選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上で課題があったと回答した人の割合は、女性の方が高く、男性と大幅なポイント差があった。（女性 73.6%、男性 36.4%）

図 4-3-40 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：基本集計結果（両立に課題があった人における課題の内容）



両立に課題があった人における課題の内容では、男女ともに「家事」（女性 78.5%、男性 52.8%）と回答した割合が最も高かった。なお、「家事」と「育児」、「家事」と「介護」との複数回答も多く、両立に課題があったと回答した女性の課題数の平均は、1.76 個であった。

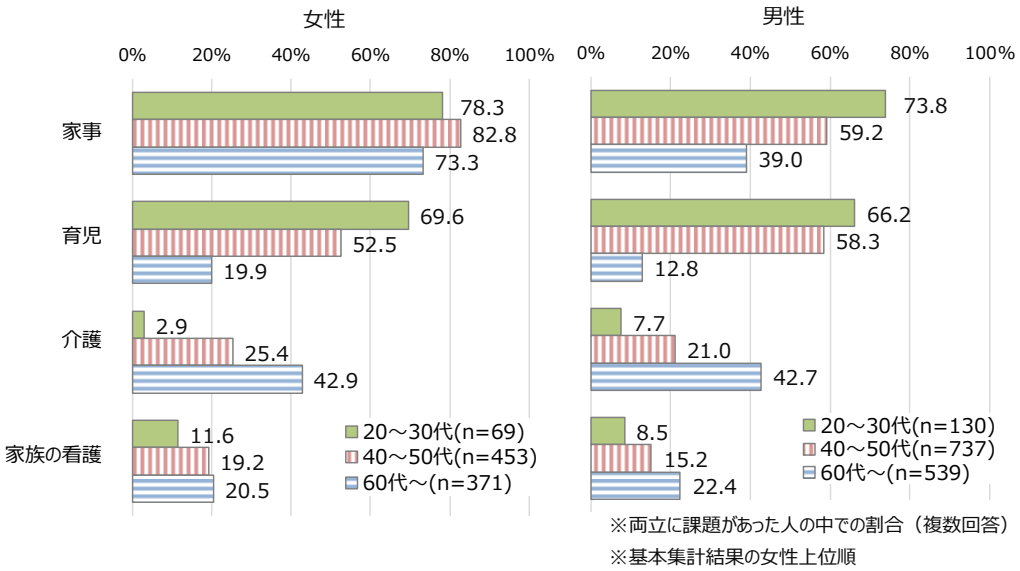
表 4-3-41 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：性差ポイント順位表（両立に課題があった人における課題の内容）

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=893)	男性 (n=1,406)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**家事**	**78.5** **(1位)**	**52.8** **(1位)**	**+25.7**
2	介護	30.9 (3位)	28.1 (3位)	+2.8
3	家族の看護	19.1 (4位)	17.4 (4位)	+1.7
4	育児	40.3 (2位)	41.6 (2位)	▲1.3

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

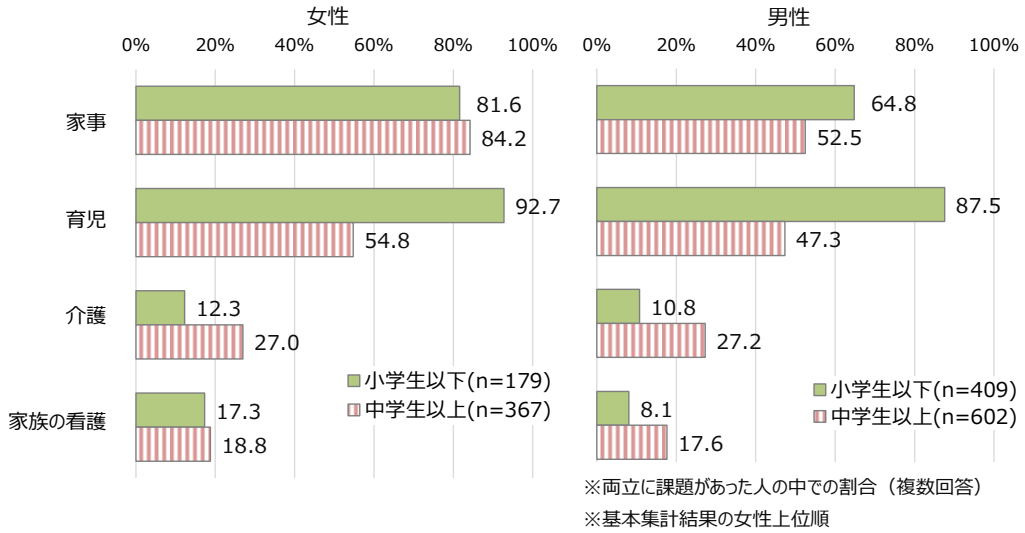
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「家事」で、女性の方が 25.7 ポイント高かった。

図 4-3-42 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：性・年代別のクロス分析結果（両立に課題があった人における課題の内容）



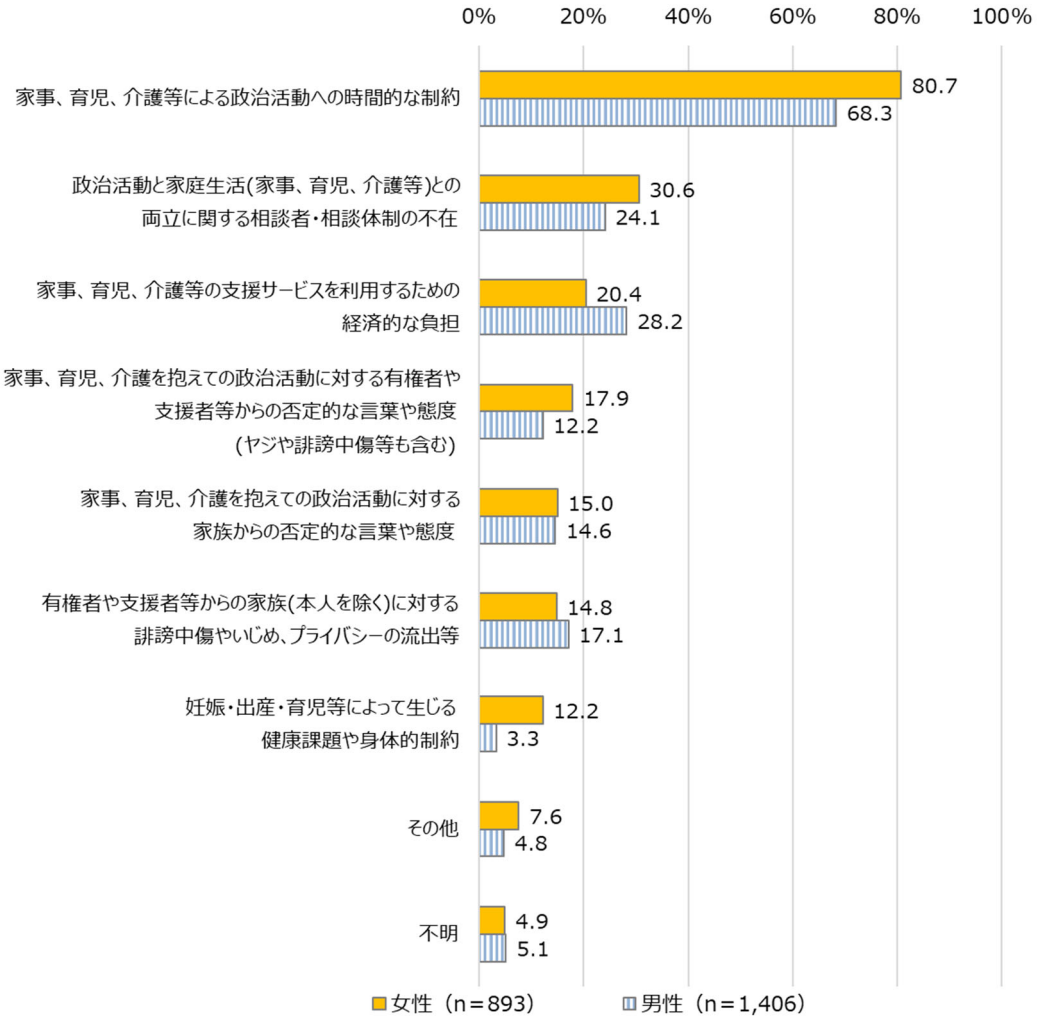
年代別にみると、女性は全ての年代において「家事」が 1 位になっているのに対し、男性の 60 代以降は「介護」が 1 位であった。なお、女性においても 60 代以降は「介護」が 2 位であった。

図 4-3-43 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：性・同居しているこどもの年齢別のクロス分析結果（両立に課題があった人における課題の内容）



同居しているこどもの年齢別にみると、男女ともに、小学生以下のこどもと同居している人は「育児」、中学生以上のこどもと同居している人は「家事」が 1 位となった。ただし、女性の回答をみると、こどもの年代を問わず「家事」と回答した人は 80%以上を超えており、男性と 15 ポイント以上の差があった。

図 4-3-44 両立における課題や不安、悩み（MA）： 基本集計結果



選挙運動や議員活動、日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題について「両立に課題があった」と回答した人に、両立における課題や不安、悩みを尋ねたところ、男女ともに「家事・育児、介護等による政治活動への時間的な制約」（女性 80.7%、男性 68.3%）と回答する割合が最も高かった。

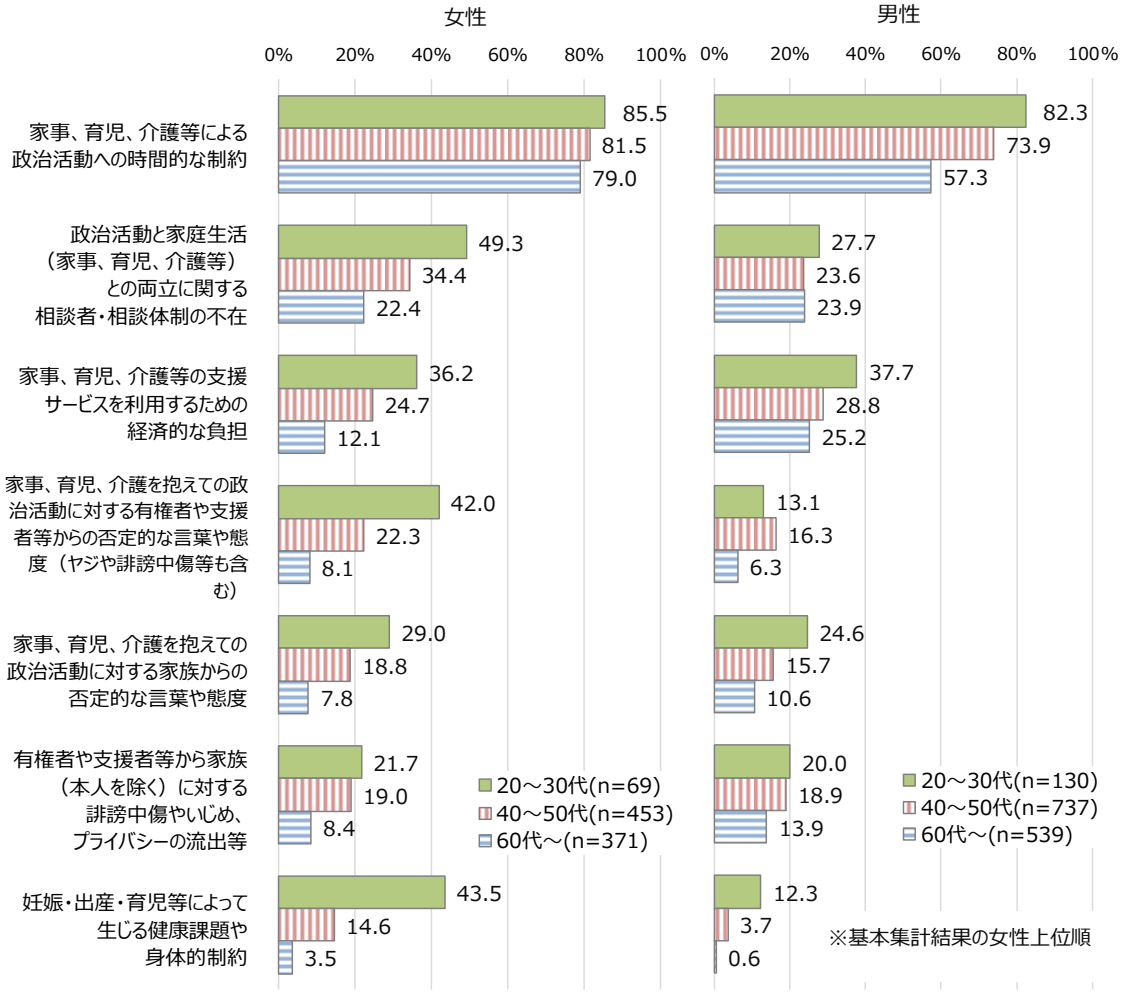
表 4-3-45 両立における課題や不安、悩み（MA）： 性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=893)	男性 (n=1,406)	性差ポイント (女性－男性)
1	**家事、育児、介護等による政治活動への時間的な制約**	**80.7 (1位)**	**68.3 (1位)**	**+12.4**
2	妊娠・出産・育児等によって生じる健康課題や身体的制約	12.2 (7位)	3.3 (7位)	+8.9
3	家事、育児、介護等の支援サービスを利用するための経済的な負担	20.4 (3位)	28.2 (2位)	▲7.8
4	政治活動と家庭生活(家事、育児、介護等)との両立に関する相談者・相談体制の不在	30.6 (2位)	24.1 (3位)	+6.5
5	家事、育児、介護を抱えての政治活動に対する有権者や支援者等からの否定的な言葉や態度(ヤジや誹謗中傷等も含む)	17.9 (4位)	12.2 (6位)	+5.7
6	有権者や支援者等から家族(本人を除く)に対する誹謗中傷やいじめ、プライバシーの流出等	14.8 (6位)	17.1 (4位)	▲2.3
7	家事、育児、介護を抱えての政治活動に対する家族からの否定的な言葉や態度	15.0 (5位)	14.6 (5位)	+0.4

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

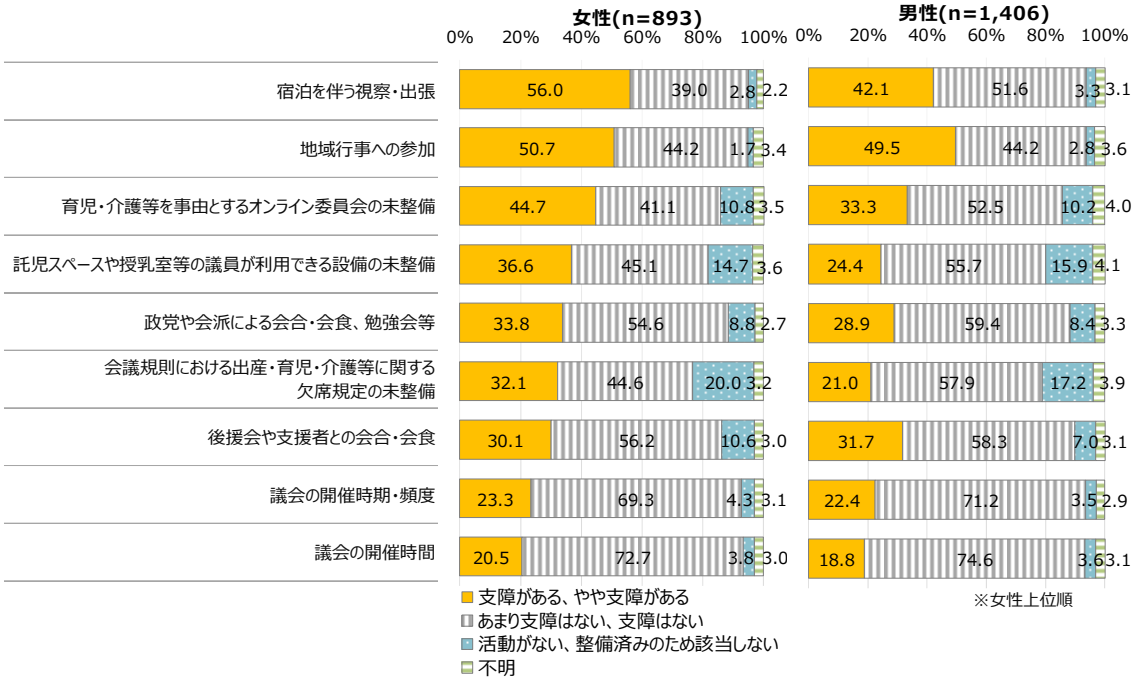
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「家事・育児、介護等による政治活動への時間的な制約」で、女性の方が 12.4 ポイント高かった。次に「妊娠・出産・育児等によって生じる健康課題や身体的制約」で女性の方が 8.9 ポイント高かった。

図 4-3-46 両立における課題や不安、悩み（MA）： 性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、女性の 20～30 代については、全ての項目について、課題と感じている割合が他の年代より高かった。また、男性のうち 20～30 代の若年層については、全 7 項目中 6 項目について同様の傾向がみられた。

図 4-3-47 議員活動や日常的な政治活動と家庭生活の両立における支障とその程度（SA）：基本集計結果



女性では「宿泊を伴う視察・出張」（56.0%）と回答した割合が最も高く、次いで「地域行事への参加」（50.7%）であった。

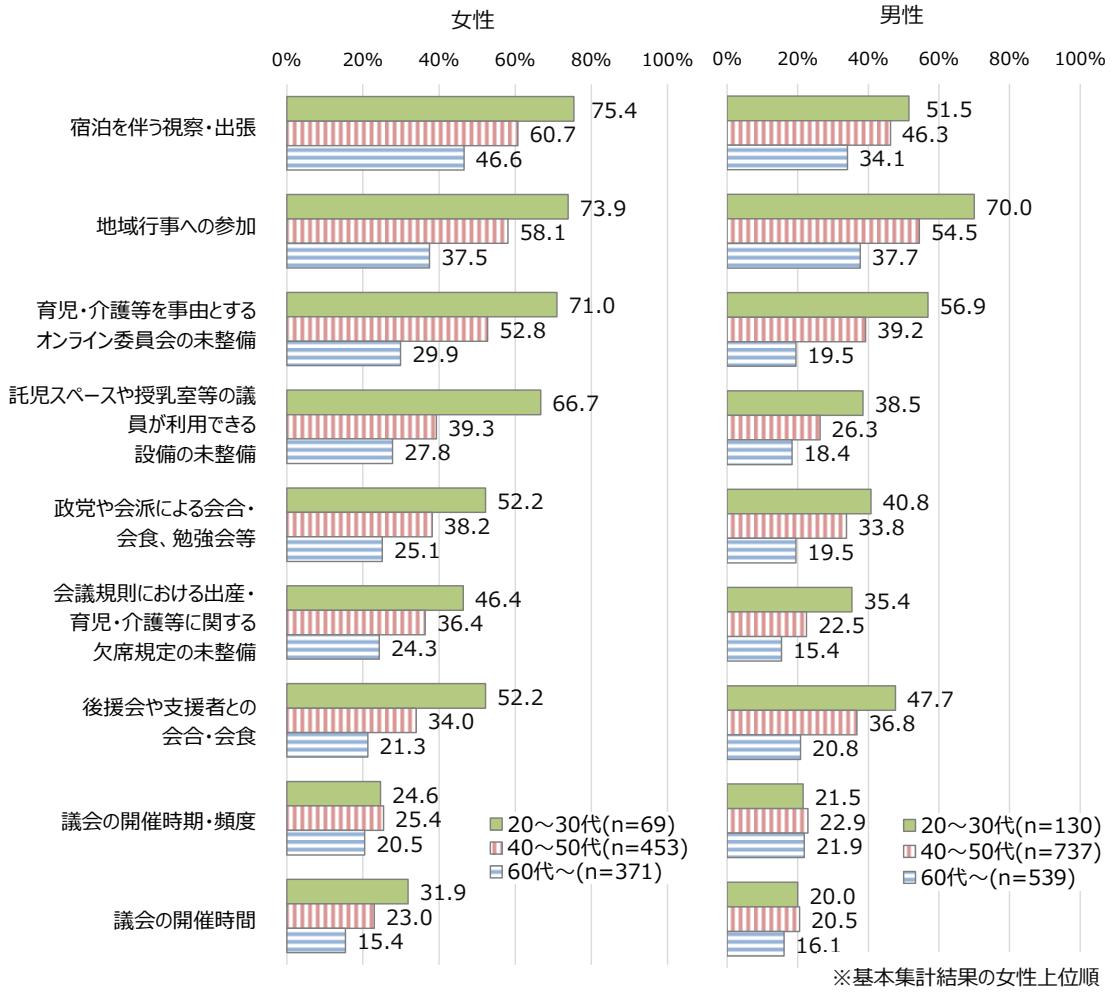
表 4-3-48 議員活動や日常的な政治活動と家庭生活の両立における支障とその程度（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=893)	男性 (n=1,406)	性差ポイント (女性－男性)
1	**宿泊を伴う視察・出張**	**56.0 (1位)**	**42.1 (2位)**	**＋13.9**
2	**託児スペースや授乳室等の議員が利用できる設備の未整備**	**36.6 (4位)**	**24.4 (6位)**	**＋12.2**
3	**育児・介護等を事由とするオンライン委員会の未整備**	**44.7 (3位)**	**33.3 (3位)**	**＋11.4**
4	**会議規則における出産・育児・介護等に関する欠席規定の未整備**	**32.1 (6位)**	**21.0 (8位)**	**＋11.1**
5	政党や会派による会合・会食、勉強会等	33.8 (5位)	28.9 (5位)	＋4.9
6	議会の開催時間	20.5 (9位)	18.8 (9位)	＋1.7
7	後援会や支援者との会合・会食	30.1 (7位)	31.7 (4位)	▲1.6
8	地域行事への参加	50.7 (2位)	49.5 (1位)	＋1.2
9	議会の開催時期・頻度	23.3 (8位)	22.4 (7位)	＋0.9

※男女の回答割合は「支障がある」及び「やや支障がある」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

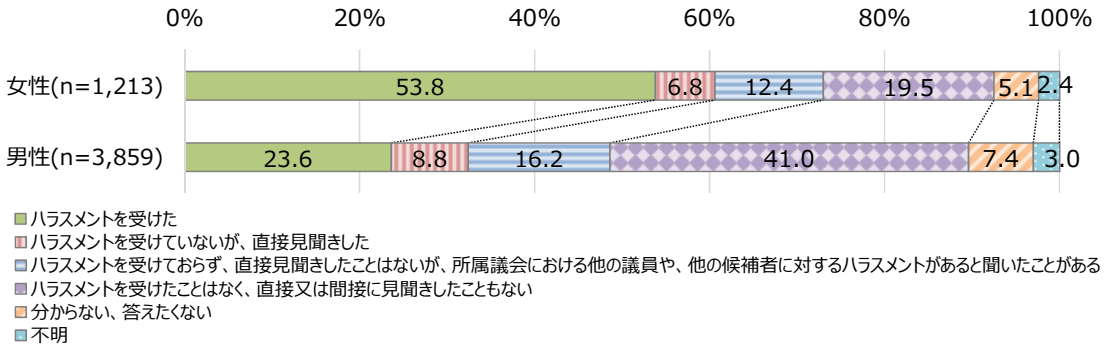
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「宿泊を伴う視察・出張」で、女性の方が 13.9 ポイント高かった。次に「託児スペースや授乳室等の議員が利用できる設備の未整備」で、女性の方が 12.2 ポイント高かった。

図 4-3-49 議員活動や日常的な政治活動と家庭生活の両立における支障とその程度（SA）：性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、女性の 20～30 代については、全 9 項目中 8 項目について、課題と感じている割合が他の年代より高かった。また、男性のうち 20～30 代の若年層については、全 9 項目中 7 項目について同様の傾向がみられた。

図 4-3-50 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動において、自身や家族、支援者等が有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたか（SA）：基本集計結果



女性では「ハラスメントを受けた」（53.8%）と回答した割合が最も高く、男性では「ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない」（41.0%）が最も高く、令和２年度障壁調査と同様に、男女で顕著な差がみられた。

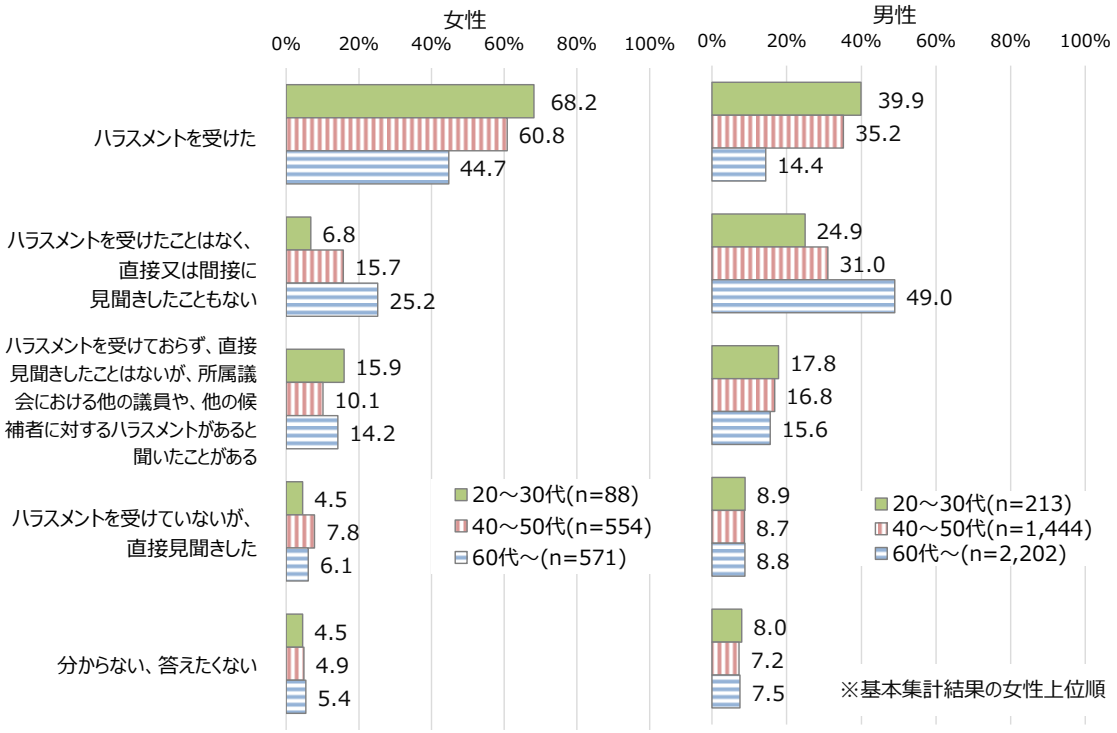
表 4-3-51 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動において、自身や家族、支援者等が有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたか（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	**ハラスメントを受けた**	**53.8 (1位)**	**23.6 (2位)**	**+30.2**
2	**ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない**	**19.5 (2位)**	**41.0 (1位)**	**▲21.5**
3	ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、所属議会における他の議員や、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある	12.4 (3位)	16.2 (3位)	▲3.8
4	分からない、答えたくない	5.1 (5位)	7.4 (5位)	▲2.3
5	ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした	6.8 (4位)	8.8 (4位)	▲2.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

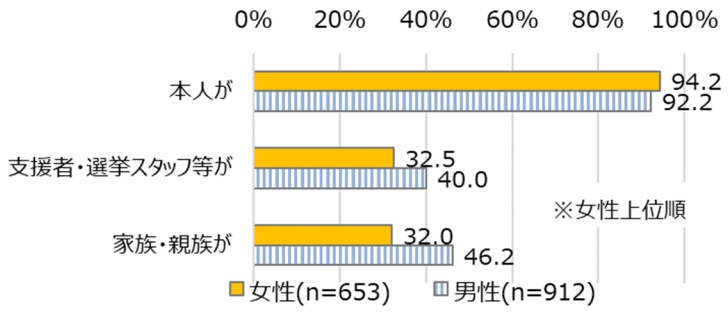
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「ハラスメントを受けた」で、女性の方が 30.2 ポイント高く、男性の倍以上であった。一方「ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない」は、男性の方が 21.5 ポイント高かった。

図 4-3-52 選挙運動や議員活動、日常的な政治活動において、自身や家族、支援者等が有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けたか（SA）：性・年代別のクロス分析結果



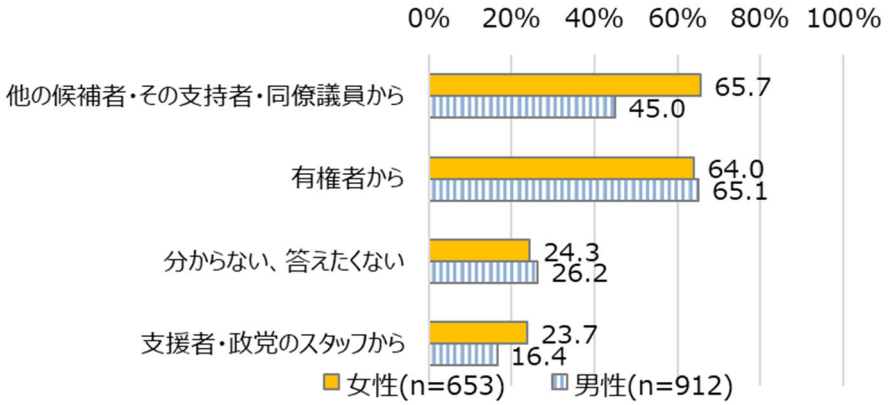
年代別にみると、女性は年代を問わず「ハラスメントを受けた」の回答が最も多いが、女性の 20～30 代と女性の 60 代以降では 20 ポイント以上の差があり、男性においても同様の傾向となった。また、男性の 60 代は「ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない」が約半数を占めた。ハラスメントの認識について、性別・年代により違いがあると考えられる。

図 4-3-53 ハラスメントの詳細（MA）：基本集計結果（ハラスメント対象者）



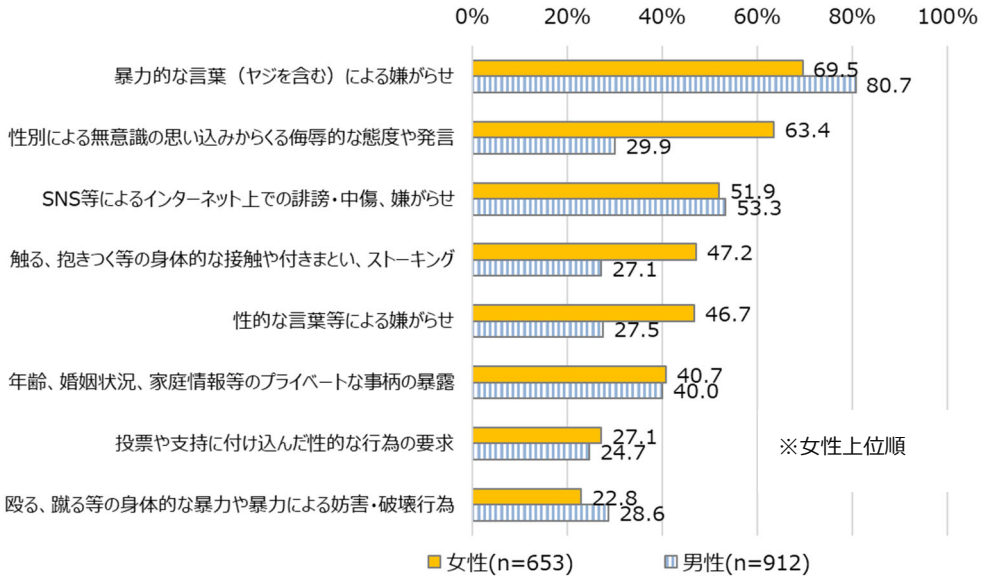
ハラスメントを受けたと回答した人に、ハラスメント対象者（誰が）を尋ねたところ、「本人が」と回答した割合が男女ともに高く、大きな男女差はみられなかったが、「家族・親族が」、「支援者・選挙スタッフ等が」の回答においては、男性の方がポイントが高かった。ただし、「本人が」以外は、実際にハラスメントを受けた人の性別は判明しないという点に注意が必要である。

図 4-3-54 ハラスメントの詳細（MA）：基本集計結果（ハラスメント行為者）



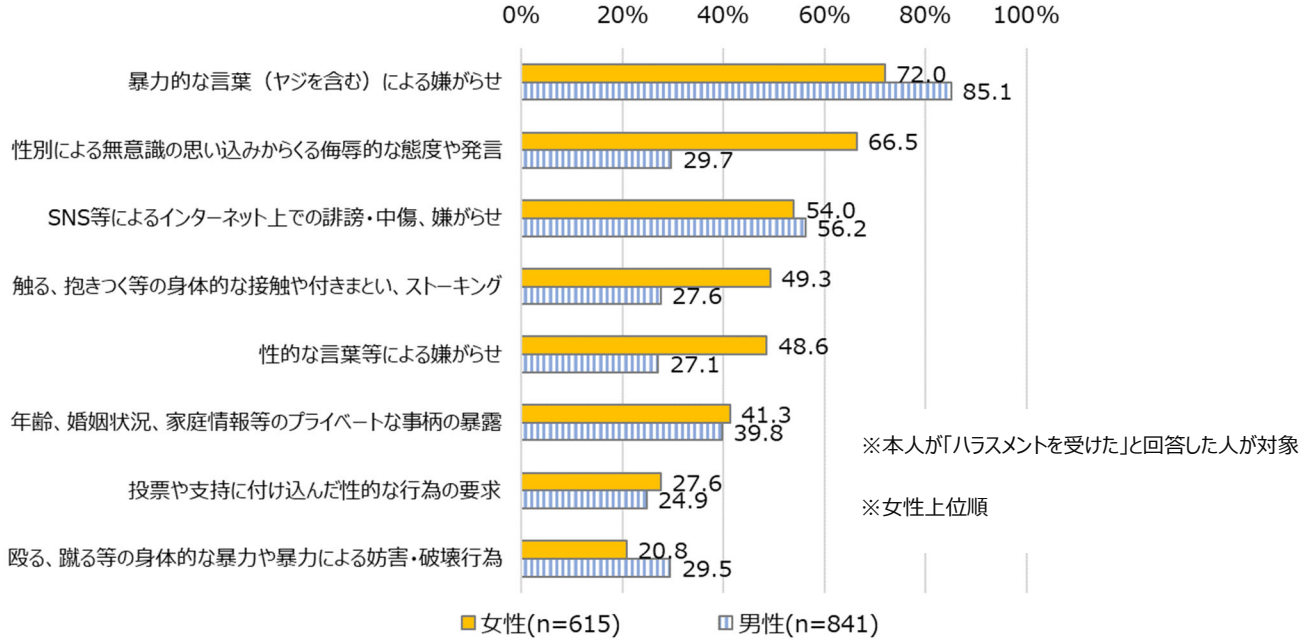
ハラスメントを受けたと回答した人に、ハラスメント行為者（誰から）を尋ねたところ、男女ともに「有権者から」と回答した割合に大きな男女差は見られなかったが、「他の候補者・その支持者・同僚議員から」、「支援者・政党のスタッフから」との回答においては、女性の方がポイントが高かった。

図 4-3-55 ハラスメントの詳細（MA）：基本集計結果（ハラスメント内容）



ハラスメントの内容について、ハラスメント対象者を問わず、全体においては、男女ともに「暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」と回答した割合が最も高く、次いで女性では「性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言」が僅差で２位であった。

図 4-3-56 ハラスメントの詳細（MA）：基本集計結果（本人が受けたハラスメント内容）



本人が受けたハラスメント内容においても、男女ともに「暴力的な言葉（ヤジを含む）

による嫌がらせ」と回答した割合が最も高く、女性では「性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言」が僅差で2位であった。

表 4-3-57 ハラスメントの詳細（MA）：性差ポイント順位表（本人が受けたハラスメント内容）

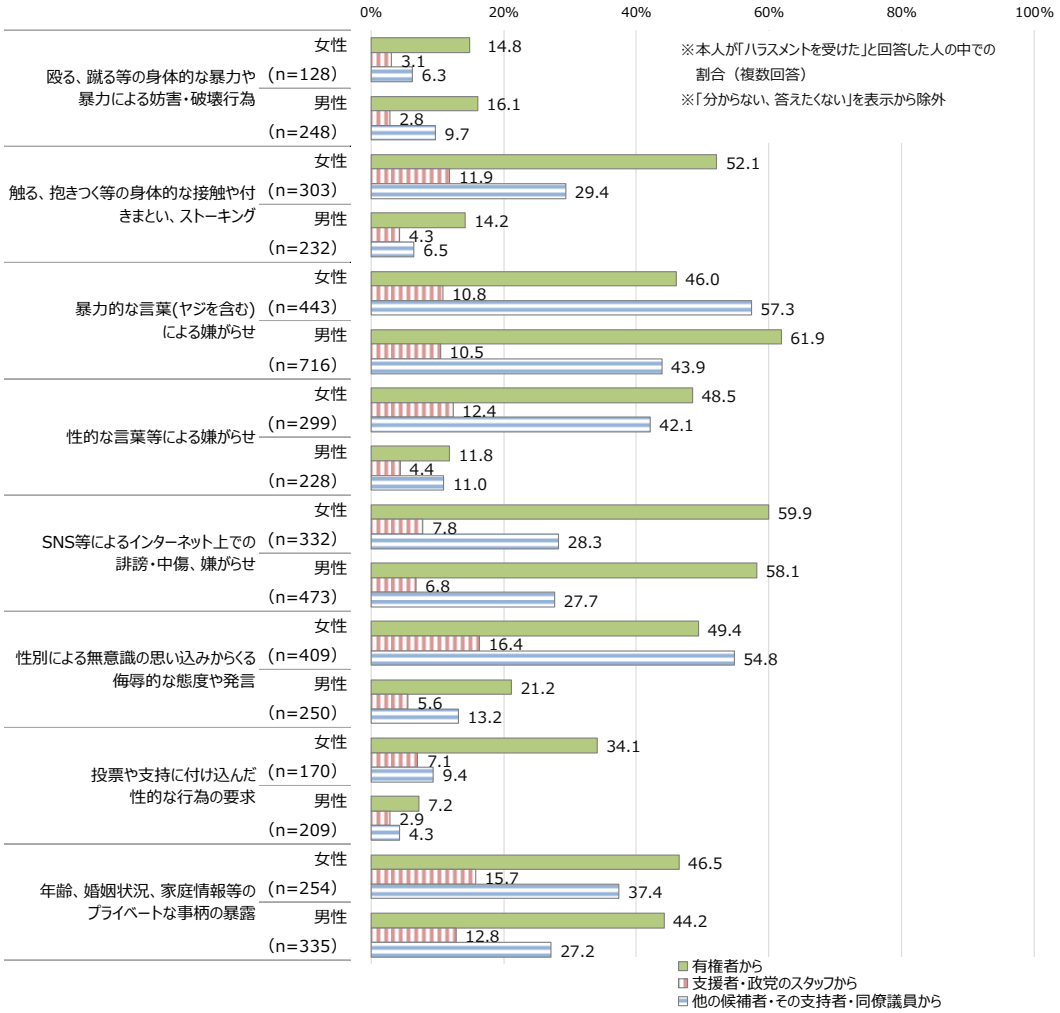
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=615)	男性 (n=841)	性差ポイント (女性－男性)
1	**性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言**	**66.5** **(2位)**	**29.7** **(4位)**	**+36.8**
2	**触る、抱きつく等の身体的な接触や付きまとい、ストーキング**	**49.3** **(4位)**	**27.6** **(6位)**	**+21.7**
3	**性的な言葉等による嫌がらせ**	**48.6** **(5位)**	**27.1** **(7位)**	**+21.5**
4	**暴力的な言葉(ヤジを含む)による嫌がらせ**	**72.0** **(1位)**	**85.1** **(1位)**	**▲13.1**
5	殴る、蹴る等の身体的な暴力や暴力による妨害・破壊行為	20.8 (8位)	29.5 (5位)	▲8.7
6	投票や支持に付け込んだ性的な行為の要求	27.6 (7位)	24.9 (8位)	+2.7
7	SNS等によるインターネット上での誹謗・中傷、嫌がらせ	54.0 (3位)	56.2 (2位)	▲2.2
8	年齢、婚姻状況、家庭情報等のプライベートな事柄の暴露	41.3 (6位)	39.8 (3位)	+1.5

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

本人が受けたハラスメントにおいて、女性と男性でポイント差が最も大きかったものは、「性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言」であり、女性の方が36.8ポイント高かった。次いで、「触る、抱きつく等の身体的な接触や付きまとい、ストーキング」、「性的な言葉等による嫌がらせ」と、いわゆるセクシュアルハラスメントにおいて、20ポイント以上の差がみられた。

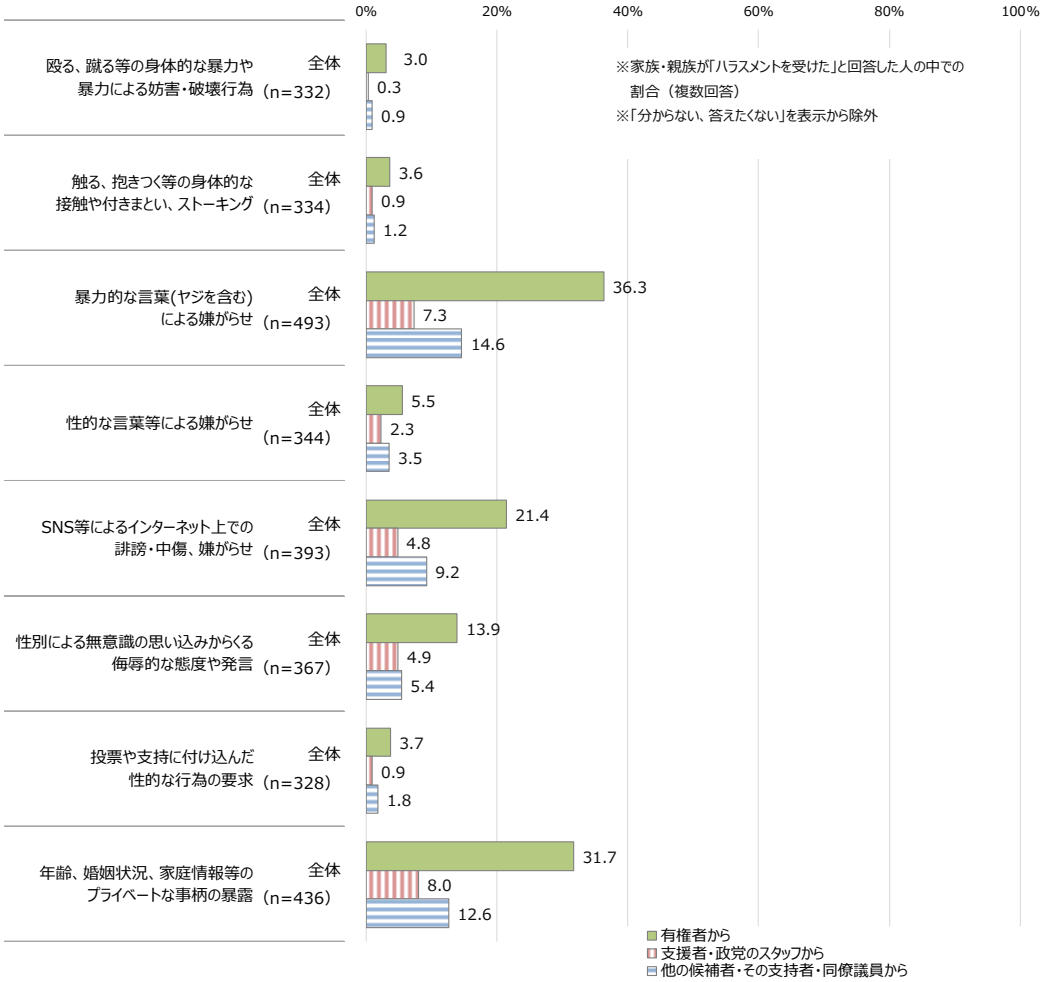
なお、家族・親族が受けたハラスメント、支援者・選挙スタッフ等が受けたハラスメントでは、ハラスメントを受けた人の性別が判明しないため、性差の分析は省略する。

図 4-3-58 ハラスメントの詳細（MA）：行為者別集計結果（本人が受けたハラスメント内容）



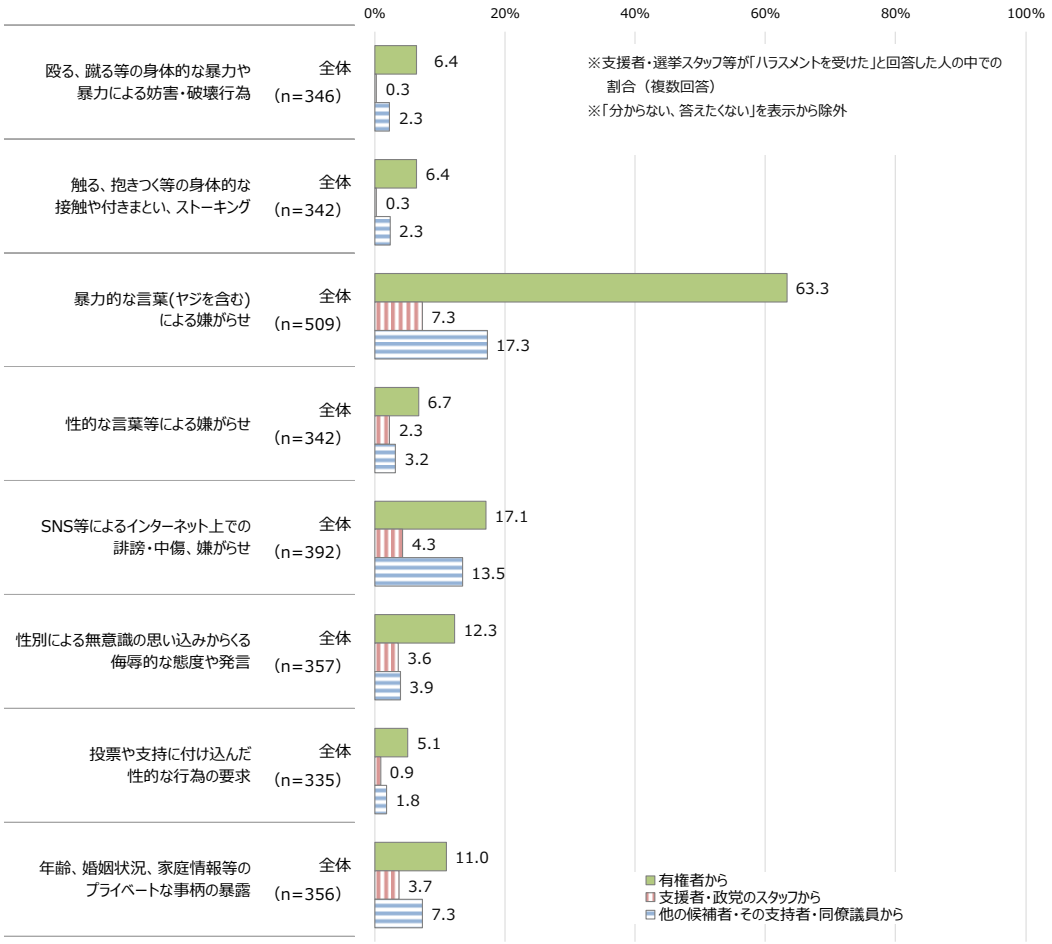
本人が受けたハラスメントの内容を行為者別にみると、女性は有権者からの「SNS 等によるインターネット上での誹謗・中傷、嫌がらせ」（59.9%）と回答した割合が最も高かったが、「暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」（57.3%）や「性別による無意識の思い込みからくる侮辱的な態度や発言」（54.8%）は、他の候補者・その支持者・同僚議員からの回答割合が高かった。

図 4-3-59 ハラスメントの詳細（MA）：行為者別集計結果（家族・親族が受けたハラスメント内容）



家族・親族が受けたハラスメントの内容を行為者別にみると、最も多かったのは有権者からの「暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」（36.3%）で、次いで有権者からの「年齢、婚姻状況、家庭情報等のプライベートな事柄の暴露」（31.7%）となった。家族・親族が受けたハラスメントでも、有権者からのものが多いことがわかった。なお、ハラスメントを受けた家族・親族の性別は判明しないため、性差の分析は除外する。

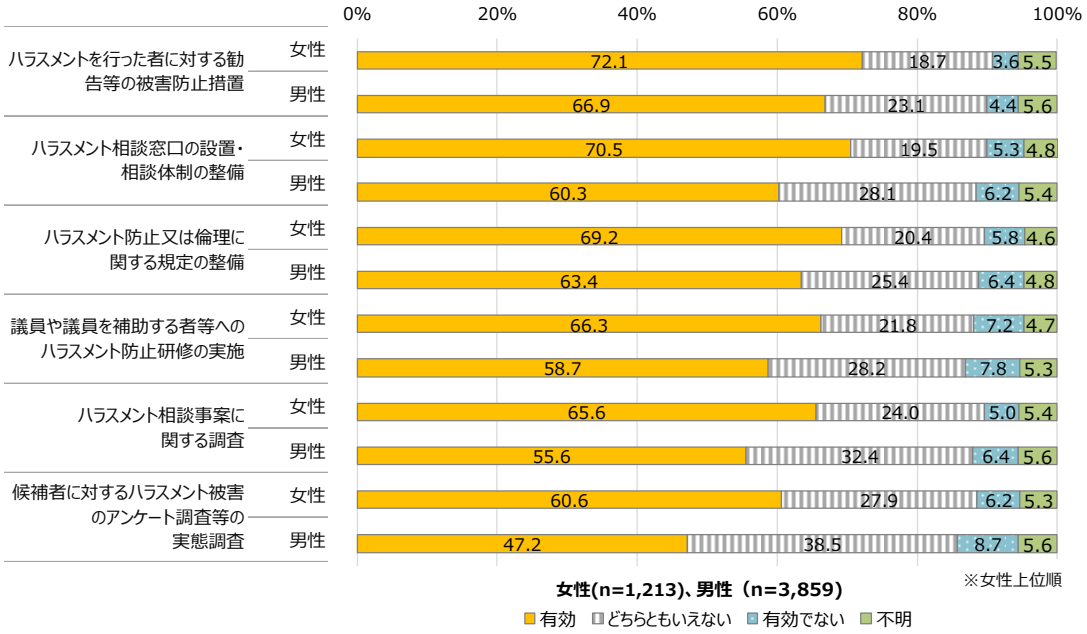
図 4-3-60 ハラスメントの詳細（MA）：行為者別集計結果（支援者・選挙スタッフ等が受けたハラスメント内容）



支援者・選挙スタッフ等が受けたハラスメントの内容を行為者別にみると、家族・親族が受けたハラスメント同様、最も多かったのは有権者からの「暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」（63.3%）であった。

なお、ハラスメントを受けた支援者・選挙スタッフ等の性別は判明しないため、性差の分析は除外する。

図 4-3-61 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる議会又は選挙管理委員会での取組（SA）：基本集計結果



男女ともに「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」（女性 72.1%、男性 66.9%）と回答した割合が最も高かった。

表 4-3-62 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる議会又は選挙管理委員会での取組（SA）：性差ポイント順位表

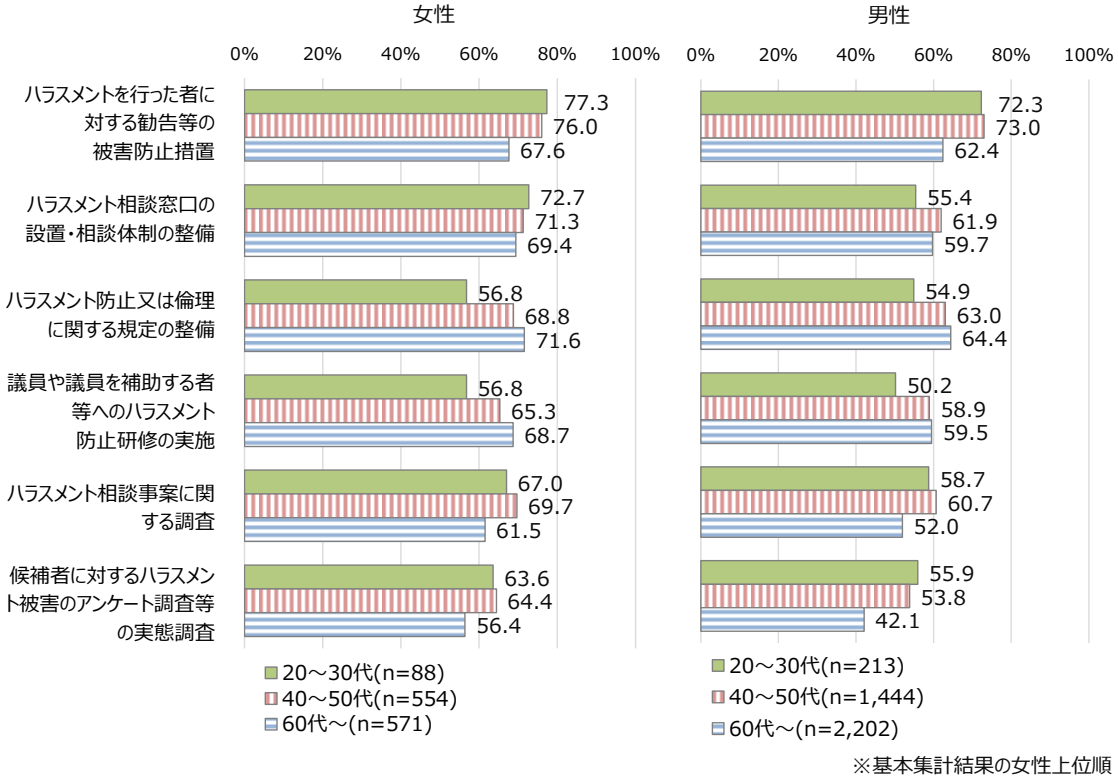
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性−男性)
1	**候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査**	**60.6 (6位)**	**47.2 (6位)**	**+13.4**
2	**ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備**	**70.5 (2位)**	**60.3 (3位)**	**+10.2**
3	**ハラスメント相談事案に関する調査**	**65.6 (5位)**	**55.6 (5位)**	**+10.0**
4	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	66.3 (4位)	58.7 (4位)	+7.6
5	ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備	69.2 (3位)	63.4 (2位)	+5.8
6	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	72.1 (1位)	66.9 (1位)	+5.2

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査」で、女性の方が 13.4 ポイント高かった。次に「ハラスメン

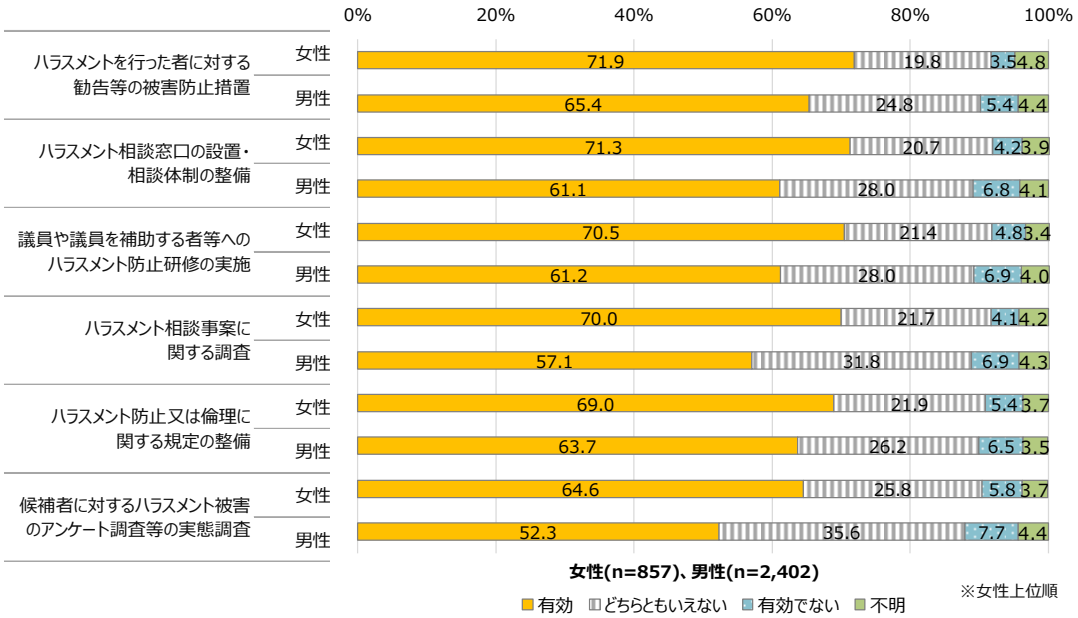
ト相談窓口の設置・相談体制の整備」、「ハラスメント相談事案に関する調査」が続き、それぞれ女性の方が 10.2 ポイント、10.0 ポイント高かった。

図 4-3-63 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる議会又は選挙管理委員会での取組（SA）：性・年代別のクロス分析結果



男女ともに、20～30 代及び 40～50 代では「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」と回答した割合が最も高かった。一方、男女ともに 60 代以上では「ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備」と回答した割合が最も高く、年代で差がみられた。

図 4-3-64 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる政党・会派での取組（SA）：基本集計結果



男女ともに「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」（女性 71.9%、男性 65.4%）と回答した割合が最も高かった。

表 4-3-65 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる政党・会派での取組（SA）：性差ポイント順位表

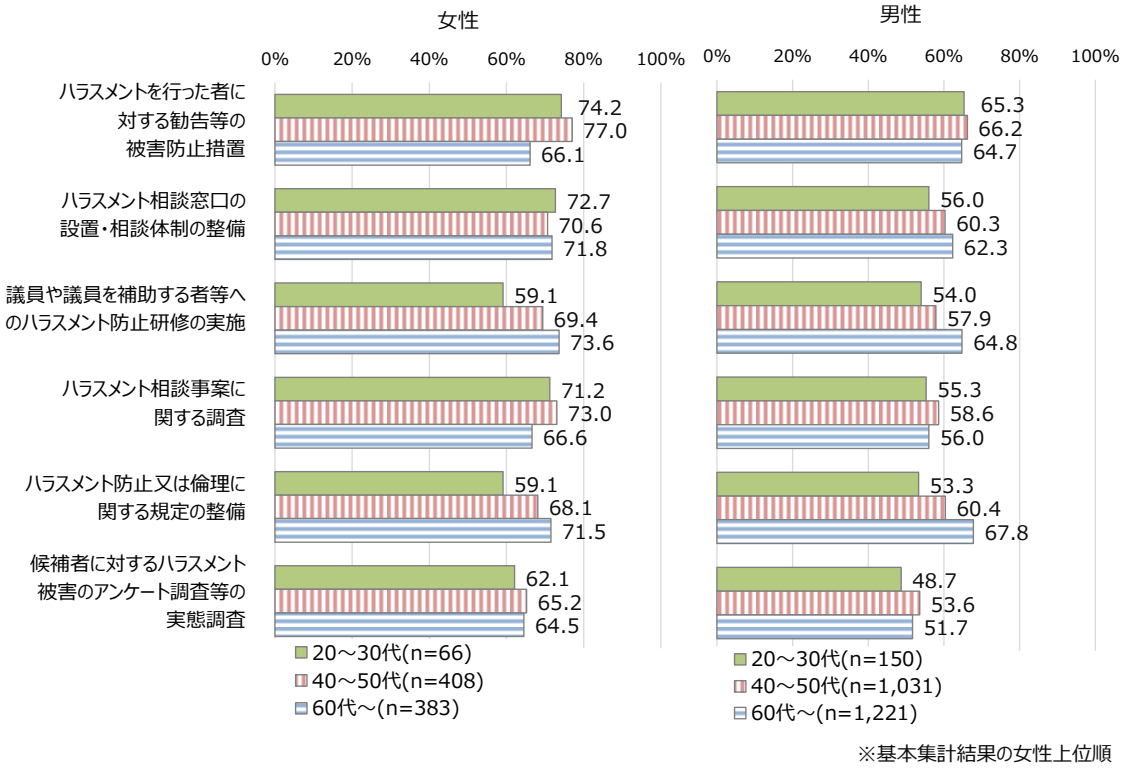
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=857)	男性 (n=2,402)	性差ポイント (女性−男性)
1	**ハラスメント相談事案に関する調査**	**70.0 (4位)**	**57.1 (5位)**	**+12.9**
2	**候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査**	**64.6 (6位)**	**52.3 (6位)**	**+12.3**
3	**ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備**	**71.3 (2位)**	**61.1 (4位)**	**+10.2**
4	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	70.5 (3位)	61.2 (3位)	+9.3
5	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	71.9 (1位)	65.4 (1位)	+6.5
6	ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備	69.0 (5位)	63.7 (2位)	+5.3

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「ハラスメント相談事案に関する調査」で、女性の方が 12.9 ポイント高かった。次に「候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査」、「ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備」が続き、それ

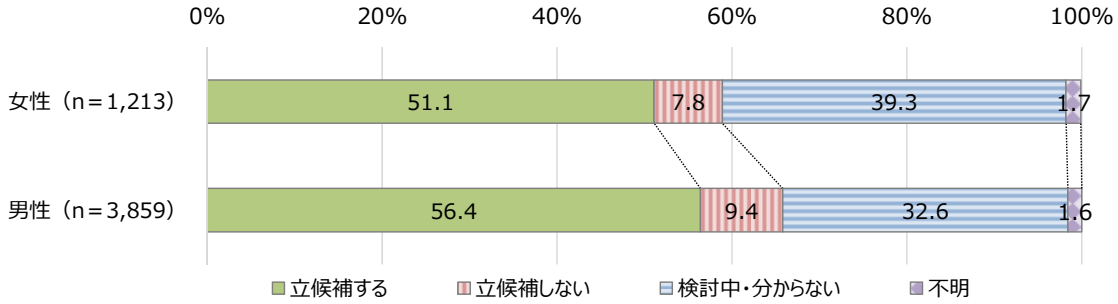
ぞれ女性の方が 12.3 ポイント、10.2 ポイント高かった。

図 4-3-66 有権者、支援者、議員等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる政党・会派での取組（SA）：性・年代別のクロス分析結果



男女ともに、20～30代及び40～50代では「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」と回答した割合が最も高かった。一方、女性の60代以降では「議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施」、男性の60代以降では「ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備」と回答した割合が最も高く、年代で差がみられた。

図 4-3-67 今後の立候補予定（続投の意思の有無）（SA）：基本集計結果



男女ともに「立候補する」（女性 51.1%、男性 56.4%）と回答した割合が最も高かったが、「検討中・分からない」と回答する割合は、女性では 4 割近くに及んだ。

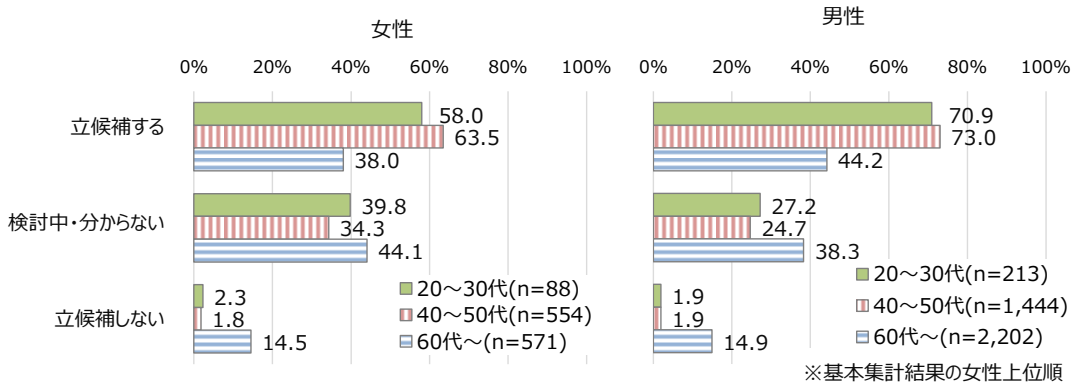
表 4-3-68 今後の立候補予定（続投の意思の有無）（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	検討中・分からない	39.3 (2位)	32.6 (2位)	+6.7
2	立候補する	51.1 (1位)	56.4 (1位)	▲5.3
3	立候補しない	7.8 (3位)	9.4 (3位)	▲1.6

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

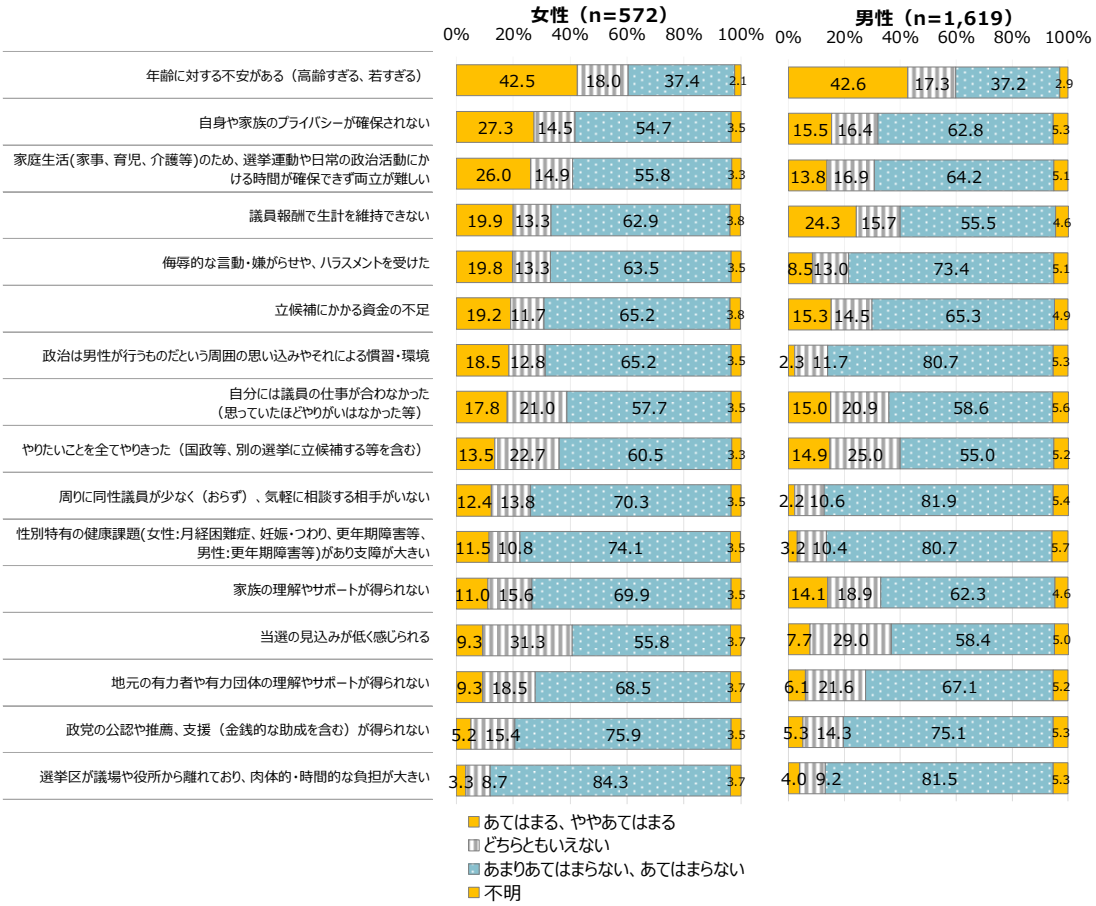
女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「検討中・分からない」で、女性の方が 6.7 ポイント高かった。

図 4-3-69 今後の立候補予定（続投の意思の有無）（SA）：性・年代別のクロス分析結果



年代別にみると、女性の 20～30 代及び 40～50 代は「立候補する」と回答した割合が 6 割前後であるのに対し、女性の 60 代以降は 4 割弱であった。男女ともに 60 代以降は、「立候補しない」と回答した割合が他の年代よりも 10 ポイント以上高かった。

図 4-3-70 「立候補しない」又は「検討中・分からない」の理由（SA）：基本集計結果



今後の立候補予定（続投の意思の有無）について、「立候補しない」又は「検討中・分からない」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、男女ともに「年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）」（女性 42.5%、男性 42.6%）と回答した割合が最も高く、次いで女性では「自身や家族のプライバシーが確保されない」（27.3%）、「家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい」（26.0%）、「議員報酬で生計を維持できない」（19.9%）、「侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた」（19.8%）であった。

表 4-3-71 「立候補しない」又は「検討中・分からない」の理由（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=572)	男性 (n=1,619)	性差ポイント (女性－男性)
1	**政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境**	**18.5 (7位)**	**2.3 (15位)**	**+16.2**
2	**家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい**	**26.0 (3位)**	**13.8 (8位)**	**+12.2**
3	**自身や家族のプライバシーが確保されない**	**27.3 (2位)**	**15.5 (3位)**	**+11.8**
4	**侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた**	**19.8 (5位)**	**8.5 (9位)**	**+11.3**
5	**周りに同性議員が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない**	**12.4 (10位)**	**2.2 (16位)**	**+10.2**
6	性別特有の健康課題(女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい	11.5 (11位)	3.2 (14位)	+8.3
7	議員報酬で生計を維持できない	19.9 (4位)	24.3 (2位)	▲4.4
8	立候補にかかる資金の不足	19.2 (6位)	15.3 (4位)	+3.9
9	地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない	9.3 (13位)	6.1 (11位)	+3.2
10	家族の理解やサポートが得られない	11.0 (12位)	14.1 (7位)	▲3.1
11	自分には議員の仕事が合わなかった（思っていたほどやりがいはなかった等）	17.8 (8位)	15.0 (5位)	+2.8
12	当選の見込みが低く感じられる	9.3 (13位)	7.7 (10位)	+1.6
13	やりたいことを全てやりきった（国政等、別の選挙に立候補する等を含む）	13.5 (9位)	14.9 (6位)	▲1.4
14	選挙区が議場や役所から離れており、肉体的・時間的な負担が大きい	3.3 (16位)	4.0 (13位)	▲0.7
15	年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）	42.5 (1位)	42.6 (1位)	▲0.1
15	政党の公認や推薦、支援（金銭的な助成を含む）が得られない	5.2 (15位)	5.3 (12位)	▲0.1

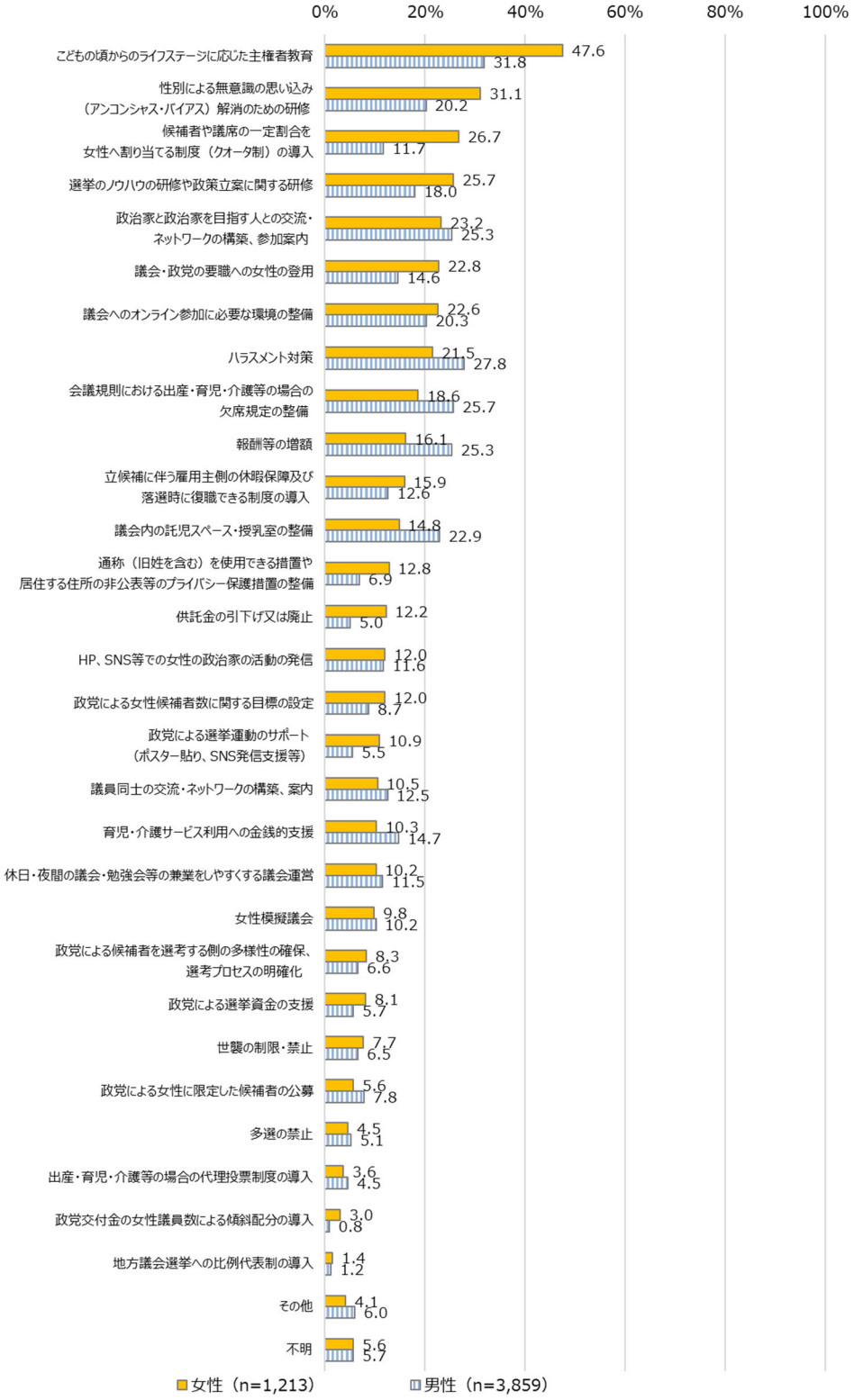
※男女の回答割合は「あてはまる」及び「ややあてはまる」の合計

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」で、女性の方が 16.2 ポイント高かった。10 ポイント以上の差がある項目は、全て女性の方がポイントが高く、女性の方が議員の続投（議員キャリアの継続）について、様々な障壁を感じていると考えられる。

Ⅲ. 女性の政治参画について

図 4-3-72 女性の政治家を増やすために有効だと思う取組（最大５つ）：基本集計結果



男女ともに「こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育」（女性 47.6%、男性 31.8%）と回答した割合が最も高く、次いで女性は「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修」（31.1%）、「候補者や議席の一定割合を女性へ割り当てる制度（クオータ制）の導入」（26.7%）、「選挙のノウハウの研修や政策立案に関する研修」（25.7%）、「政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内」（23.2%）であった。

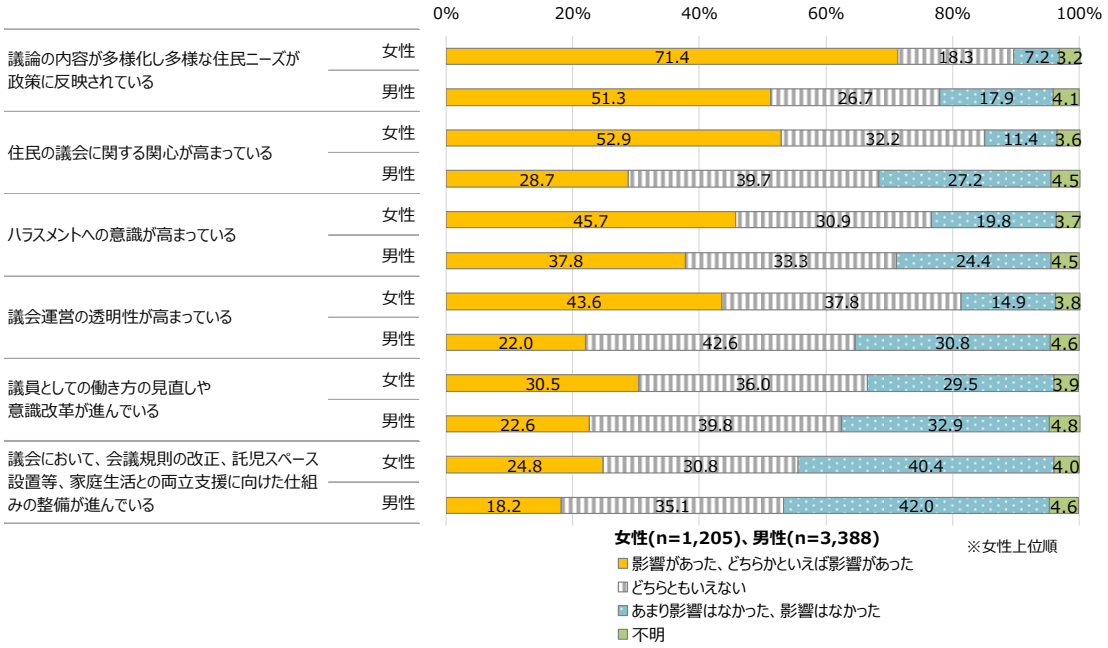
表 4-3-73 女性の政治家を増やすために有効だと思う取組（最大５つ）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,213)	男性 (n=3,859)	性差ポイント (女性－男性)
1	**こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育**	**47.6 (1位)**	**31.8 (1位)**	**+15.8**
2	**候補者や議席の一定割合を女性へ割り当てる制度（クオータ制）の導入**	**26.7 (3位)**	**11.7 (14位)**	**+15.0**
3	**性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修**	**31.1 (2位)**	**20.2 (8位)**	**+10.9**
4	報酬等の増額	16.1 (10位)	25.3 (4位)	▲9.2
5	議会・政党の要職への女性の登用	22.8 (6位)	14.6 (11位)	+8.2
6	議会内の託児スペース・授乳室の整備	14.8 (12位)	22.9 (6位)	▲8.1
7	選挙のノウハウの研修や政策立案に関する研修	25.7 (4位)	18.0 (9位)	+7.7
8	供託金の引下げ又は廃止	12.2 (14位)	5.0 (26位)	+7.2
9	会議規則における出産・育児・介護等の場合の欠席規定の整備	18.6 (9位)	25.7 (3位)	▲7.1
10	ハラスメント対策	21.5 (8位)	27.8 (2位)	▲6.3
11	通称（旧姓を含む）を使用できる措置や居住する住所の非公表等のプライバシー保護措置の整備	12.8 (13位)	6.9 (20位)	+5.9
12	政党による選挙運動のサポート（ポスター貼り、SNS発信支援等）	10.9 (17位)	5.5 (24位)	+5.4
13	育児・介護サービス利用への金銭的支援	10.3 (19位)	14.7 (10位)	▲4.4
14	立候補に伴う雇用主側の休暇保障及び落選時に復職できる制度の導入	15.9 (11位)	12.6 (12位)	+3.3
14	政党による女性候補者数に関する目標の設定	12.0 (15位)	8.7 (18位)	+3.3
16	政党による選挙資金の支援	8.1 (23位)	5.7 (23位)	+2.4
17	議会へのオンライン参加に必要な環境の整備	22.6 (7位)	20.3 (7位)	+2.3
19	政党による女性に限定した候補者の公募	5.6 (25位)	7.8 (19位)	▲2.2
19	政党交付金の女性議員数による傾斜配分の導入	3.0 (28位)	0.8 (29位)	+2.2
20	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内	23.2 (5位)	25.3 (4位)	▲2.1
21	議員同士の交流・ネットワークの構築、案内	10.5 (18位)	12.5 (13位)	▲2.0
22	政党による候補者を選考する側の多様性の確保、選考プロセスの明確化	8.3 (22位)	6.6 (21位)	+1.7
23	休日・夜間の議会・勉強会等の兼業をしやすくする議会運営	10.2 (20位)	11.5 (16位)	▲1.3
24	世襲の制限・禁止	7.7 (24位)	6.5 (22位)	+1.2
25	出産・育児・介護等の場合の代理投票制度の導入	3.6 (27位)	4.5 (27位)	▲0.9
26	多選の禁止	4.5 (26位)	5.1 (25位)	▲0.6
27	HP、SNS等での女性の政治家の活動の発信	12.0 (15位)	11.6 (15位)	+0.4
27	女性模擬議会	9.8 (21位)	10.2 (17位)	▲0.4
29	地方議会選挙への比例代表制の導入	1.4 (29位)	1.2 (28位)	+0.2

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が大きかったものは、「こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育」、「候補者や議席の一定割合を女性へ割り当てる制度（クオータ制）の導入」で、女性の方が 15.8 ポイント、15.0 ポイント高かった。

図 4-3-74 女性議員の存在による所属議会への影響（SA）：基本集計結果



男女ともに「議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている」（女性 71.4%、男性 51.3%）と回答した割合が最も高かった。

表 4-3-75 女性議員の存在による所属議会への影響（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=1,205)	男性 (n=3,388)	性差ポイント (女性－男性)
1	**住民の議会に関する関心が高まっている**	**52.9 (2位)**	**28.7 (3位)**	**+24.2**
2	**議会運営の透明性が高まっている**	**43.6 (4位)**	**22.0 (5位)**	**+21.6**
3	**議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている**	**71.4 (1位)**	**51.3 (1位)**	**+20.1**
4	議員としての働き方の見直しや意識改革が進んでいる	30.5 (5位)	22.6 (4位)	+7.9
5	ハラスメントへの意識が高まっている	45.7 (3位)	37.8 (2位)	+7.9
6	議会において、会議規則の改正、託児スペース設置等、家庭生活との両立支援に向けた仕組みの整備が進んでいる	24.8 (6位)	18.2 (6位)	+6.6

※男女の回答割合は「影響があった」及び「どちらかといえば影響があった」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「住民の議会に関する関心が高まっている」で、女性の方が 24.2 ポイント高かった。次に、「議会運営の透明性が高まっている」、「議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている」が、それぞれ 21.6 ポイント、20.1 ポイント高かった。

女性議員の存在によってもたらされた所属議会における良い変化（FA）

所属議会に女性議員がいる（0%・分からない以外）と回答した人を対象に、女性議員の存在によってもたらされた良い変化を尋ねたところ、1,832 件の回答があった。回答をカテゴリ分けし、男女の記述内容を比較してみると、全体的に男女の差はあまりみられなかった。

男女ともに自由記述で回答した議員の半数以上が、「議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている」といった趣旨の回答をしており、女性の議員の存在が、政策の多様性にも影響を与えていることがうかがえる。具体的な回答をみると、男性からも、女性の視点を生かした政策提案や、男性議員だけではカバーできなかったきめ細やかな取組に対して評価する回答が挙がっている。

次いで、「議会運営の透明性が高まっている」といった趣旨の回答が女性で 15.5%、男性で 13.5%であり、意見が言いやすくなった、議会が明るくなった等の雰囲気の改善も含んでいる。また、女性で 7.8%、男性で 10.9%の議員が、「ハラスメントへの意識が高まっている」という内容の回答をしており、セクシュアルハラスメントへの認識が高まり、セクシュアルハラスメントが無くなった、といった回答のほか、乱暴な言動や、男尊女卑の慣習の改善につながった旨の回答もみられた。

ほかにも、女性や若者による議会に関する関心の高まりや、議員としての働き方の見直しや意識改革が進んでいる、といった内容の回答もあった。

図 4-3-76 女性議員の存在によってもたらされた所属議会における良い変化（FA）：アフターコーディングによる分析結果

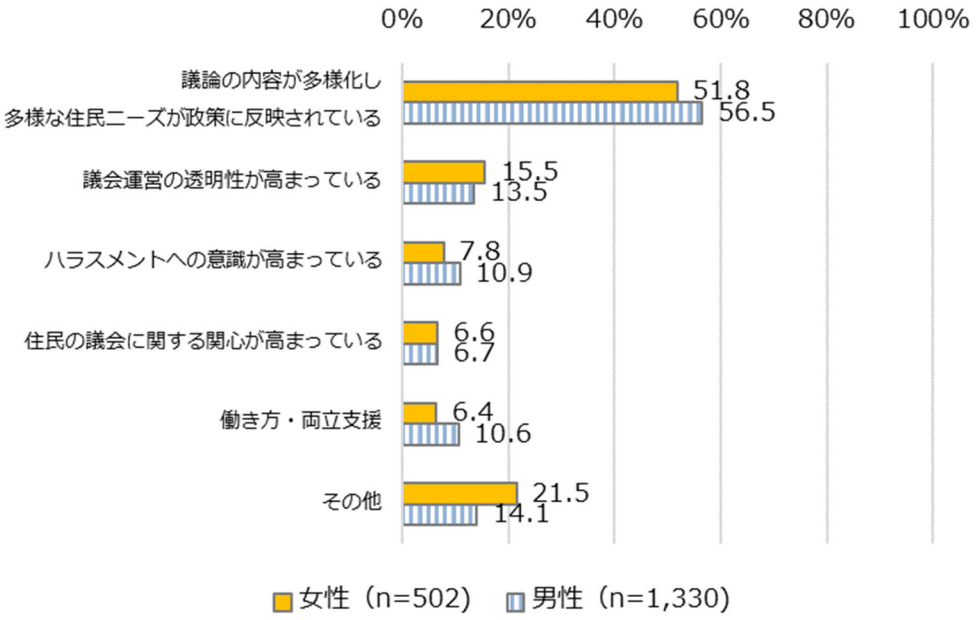


表 4-3-77 女性議員の存在によってもたらされた所属議会における良い変化（FA）：自由記述の内容

カテゴリ	自由記述の内容
議論の内容が多様化し多様な住民ニーズが政策に反映されている	・女性としての視点での市政への問題提起（全性年代共通） ・男性議員の間違った、あるいは無謀な言動に対して、女性議員から指摘を受けると男性議員から言うより聞き入れられやすい（男性 70 代以上） ・教育や福祉サービスにおいて女性が日々受け取る立場になることが多い為、よりきめ細やかな改善につながっていく（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 50 代、女性 60 代） ・市民の声を身近に聞き、政策に反映されている（女性 50 代）
議会運営の透明性が高まっている	・議会の雰囲気が明るくなった、柔らかくなった（男性全年代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代、女性 70 代） ・議会内に緊張感をもたらし、事務局との連携も取りやすくなってきた（女性 60 代） ・女性議員同士での話し合いの機会が持てる、女性議員同士で情報交換・意見交換ができる（女性 30 代、女性 40 代、女性 60 代） ・古い慣習としか思えないような議会のルールが、多少見直される変化があった（女性 50 代）

カテゴリ	自由記述の内容
ハラスメントへの意識が高まっている	・言動に注意、配慮するようになった（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代、女性 70 代以上） ・職員のお茶くみが無くなった（男性 40 代、女性 50 代） ・乱暴な発言、無神経な発言が減った（男性 60 代）
住民の議会に関する関心が高まっている	・支援者の年代層が拡大し、議会に興味を持つ人が増えた（男性 50 代） ・傍聴者に女性の姿が多くなった（男性 40 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代、女性 70 代以上） ・地域住民から相談しやすいと喜ばれる（女性 60 代） ・女性議員がいて、議会を身近になったと言う声を聞く機会が増えた（女性 70 代以上）
働き方・両立支援	・オンライン会議の整備や妊娠、出産、介護をする人でも議員になれるような体制について協議が始まった（男性 40 代、男性 50 代、男性 60 代、女性 30 代、女性 40 代、女性 50 代、女性 60 代） ・授乳室やおむつ替えのできるブースの整備が進んだ（男性 50 代、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 70 代以上）